

令和6年度（令和5年度対象）

**教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の報告書**

令和6年8月

音更町教育委員会

目 次

はじめに

1 点検及び評価の趣旨	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価の方法	1

I 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動状況

(1) 会議の状況	2
(2) 規則等の制定・改廃の状況	7
(3) 表彰の状況	8
(4) 研修会等への参加の状況	10
(5) 学校訪問の状況	10
(6) 町民への情報提供の状況	11
(7) 教育委員会の組織	12

2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上	13
(2) 健やかな体の育成	24
(3) 豊かな心の育成	29

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教対策	32
(2) 社会教育の振興	38
(3) 社会体育の振興	45

4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況 48 |

II 学識経験者の意見 56 |

はじめに

1 点検及び評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出することとなっています。

また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

音更町教育委員会では、これまでも各種計画に基づき効果的な教育行政を推進してきましたが、法に基づく点検及び評価を行い、その結果を公表することで、町民の皆様に教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図っていきます。

2 点検及び評価の対象

令和5年度の教育委員会の活動状況のほか、令和5年度教育行政執行方針に位置付けられて実施した施策・事業等を点検及び評価の対象としています。

また、特に町民の方から関心が高いと思われる「確かな学力の向上」、「健やかな体の育成」、「豊かな心の育成」について、現状や課題、今後の方向性等に関する点検・評価を行っています。

3 点検及び評価の方法

教育委員会が行った点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

学識経験者 佐藤英晶氏（帯広大谷短期大学教授）
遠藤憲晃氏（元中学校校長）

I 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動状況

(1) 会議の状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び音更町教育委員会会議規則に基づき、教育長と4人の教育委員会委員が教育行政に関する基本的な方針の決定や教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議します。

令和5年度は、次のとおり会議を開催しており、それぞれの会議において、事務局から付議案件の提案理由や説明を行った後、教育委員会委員の活発な質疑、審議を経て、いずれも決定・了承されています。

事務局では、教育委員会の会議の活性化と十分な審議を実施するため、各委員に議案・資料等の事前説明を行うなど、審議がより活発なものとなるよう配慮しています。

また、教育委員会会議の前に委員相互の意見交換をする場を設け（必要に応じ事務局も入ります。）、日常の情報交流を図るとともに、教育委員会会議において委員の意見を反映させるため、付議案件以外に意見を提案する場を設けています。

そのほか、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育の実情やあるべき姿を共有することを目的として開催している総合教育会議では、教育を行うための諸条件の整備など教育を取り巻く環境の変化や課題について協議・調整を行っており、町の施策との調和を図りつつ教育行政の様々な課題について効率的に取り組んでいます。

今後も、学校訪問などの活動を充実させながら、積極的に教育行政を推進していく必要があると考えます。

◎教育委員会会議（定例会・臨時会）

期 日	付 議 案 件
【定例会】 R5. 4. 21 [14:20～15:10]	(報告) ・ 教育委員会事務報告 ・ 小学校卒業式及び小中学校入学式の実施状況について ・ 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の分析について (議案) ・ 音更町教育研究所所員の委嘱について ・ 音更町学校運営協議会委員の任命について ・ 音更町文化財保護審議会委員の委嘱について ・ 音更町図書館協議会委員の委嘱について ・ 音更町スポーツ推進委員の委嘱について (協議案) ・ 令和5年度補正予算（案）について ・ 教育委員会の学校訪問について

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R5. 5. 26 [14:10～15:10]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町いじめ防止基本方針について ・ 音更町奨学資金審議会委員の委嘱について ・ 音更町社会教育委員及び音更町公民館運営審議会委員の委嘱について ・ 音更町青少年対策委員会委員の委嘱について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度補正予算(案)について ・ 教育委員会の学校訪問について ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
<p>【臨時会】 R5. 6. 16 [12:00～12:20]</p>	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事請負契約の締結について ・ 工事請負契約の締結について ・ 令和5年度第12地区教科書採択地区調査委員会委員の推薦について
<p>【定例会】 R5. 6. 27 [13:40～14:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町立学校に係る部活動の方針について ・ 音更町教育研究所所員の委嘱について ・ 音更町学校運営協議会委員の任命について ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する評価委員の選任について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について
<p>【定例会】 R5. 7. 14 [13:40～14:40]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ 令和5年度教科書展示会での意見について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町奨学資金支給者の決定について ・ 音更町いじめ問題等対策委員会委員の委嘱について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について

期 日	付 議 案 件
【臨時会】 R5. 8. 8 持ち回り会議	(協議案) ・ 車両損傷事故に係る損害賠償額の決定について ・ 令和5年度補正予算(案)について
【定例会】 R5. 8. 29 [15:00~16:00]	(報告) ・ 教育委員会事務報告 (議案) ・ 教育委員会の職務権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則の一部を改正する規則案 ・ 音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案 ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について ・ 令和6年度に使用する小学校用及び中学校用教科用図書の採択について ・ 音更町教育支援委員会委員の委嘱について ・ 令和6年度北海道公立学校長採用候補者の推薦について (協議案) ・ 音更町温水プール指定管理者募集要項(案)について ・ 車両損傷事故に係る損害賠償額の協議について ・ 令和5年度補正予算(案)について
【定例会】 R5. 9. 20 [13:40~14:40]	(報告) ・ 教育委員会事務報告 ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について (議案) ・ 音更町教育情報セキュリティポリシーの制定について ・ 音更町図書館条例施行規則の一部を改正する規則案 ・ 令和6年度北海道公立学校教頭昇任候補者及び北海道公立学校主幹教諭昇任候補者の推薦について ・ 小規模特認校への転入学について
【臨時会】 R5. 9. 25 持ち回り会議	(協議案) ・ 令和5年度補正予算(案)について ・ 教職員人事の内申について
【定例会】 R5. 10. 24 [13:30~14:00]	(報告) ・ 教育委員会事務報告 ・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの進捗状況について (議案) ・ 令和5年度音更町文化奨励賞等表彰者の決定について ・ 音更町指定管理者選定委員会委員の委嘱について

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R5. 11. 21 [13:30～14:10]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ 北海道教育委員会による全国学力・学習状況調査の結果公表について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町温水プールに係る指定管理者の候補者の選定について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例案 ・ 音更町附属機関設置条例の一部を改正する条例案 ・ 木野北テニスコート設置条例を廃止する条例案 ・ 令和5年度補正予算(案)について
<p>【臨時会】 R5. 12. 14 持ち回り会議</p>	<p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度補正予算(案)について
<p>【定例会】 R5. 12. 22 [13:30～14:15]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの開催結果について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町いじめ重大事態第三者調査委員会規則案 ・ 小規模特認校への転入学について ・ 小規模特認校への転入学について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例施行規則の一部を改正する規則案 ・ 令和6年度教育委員会予算編成に伴う主要事業の概要について
<p>【定例会】 R6. 1. 26 [15:00～15:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町児童生徒文化・スポーツ賞選考委員会委員の委嘱について ・ 工事請負契約の締結について ・ 工事請負契約の締結について ・ 工事請負契約の締結について ・ 工事請負契約の締結について

期 日	付 議 案 件
<p>【定例会】 R6. 2. 15 [14:30～15:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度音更町スポーツ賞等被表彰者の決定について ・ 教職員人事の内申について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度補正予算(案)について ・ 令和6年度教育委員会予算(案)及び主要事業について ・ 音更町職員定数条例の一部改正について ・ 令和6年度教育行政執行方針(案)について
<p>【定例会】 R6. 3. 19 [13:30～14:35]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ 中学校卒業式の実施状況について ・ 令和5年度いじめに関する実態調査報告について ・ 令和4年度音更町における体力・運動能力調査結果の分析について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町教育委員会公告式規則の一部を改正する規則案 ・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則案 ・ 音更町学校給食費の徴収に関する規則案 ・ 音更町教育研究所規則の一部を改正する規則案 ・ 音更町教育支援委員会規則の一部を改正する規則案 ・ 音更町文化奨励賞等の推薦要綱の一部改正について ・ 教職員人事の内申について ・ 音更町教育委員会事務局職員の人事について

◎総合教育会議

期 日	付 議 案 件
<p>R5. 11. 21 [10:30～11:50]</p>	<p>(協議案) 教育に関する諸条件の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが主語の授業づくりを目指して

(2) 規則等の制定・改廃の状況

令和5年度に制定・改正された教育委員会の規則・訓令及び教育関係の条例は次のとおりです。

ア 条例

題名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例	R5. 12. 19	R6. 4. 1
・ 音更町附属機関設置条例の一部を改正する条例	R5. 12. 19	R5. 12. 19
・ 木野北テニスコート設置条例を廃止する条例	R5. 12. 19	R6. 4. 1
・ 音更町職員定数条例の一部改正	R6. 3. 19	R6. 4. 1

イ 規則

題名	公布年月日	施行年月日
・ 教育委員会の職務権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則の一部を改正する規則	R5. 8. 29	R5. 9. 1
・ 音更町図書館条例施行規則の一部を改正する規則	R5. 9. 20	R5. 11. 1
・ 音更町いじめ重大事態第三者調査委員会規則	R5. 12. 22	R5. 12. 22
・ 特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例施行規則の一部を改正する規則	R5. 12. 22	R5. 12. 22
・ 音更町教育委員会公告式規則の一部を改正する規則	R6. 3. 19	R6. 3. 19
・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則	R6. 3. 19	R6. 4. 1
・ 音更町学校給食費の徴収に関する規則	R6. 3. 19	R6. 4. 1
・ 音更町教育研究所規則の一部を改正する規則	R6. 3. 19	R6. 4. 1
・ 音更町教育支援委員会規則の一部を改正する規則	R6. 3. 19	R6. 4. 1

ウ 訓令

題名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令	R5. 8. 29	R5. 9. 1

(3) 表彰の状況

ア 音更町文化奨励賞等

[音更町の文化の高揚と発展に寄与した個人又は団体を表彰]

① 文化奨励賞：(科学・芸術・教育等を通じ、音更町の文化の進展に著しく貢献した個人又は団体を表彰)

	氏 名	表 彰 事 由
個人	有賀 克幸	平成4年から西中カラオケ会を発足し現在に至るまで会長を務め、後進の育成に尽力された。また、町内会のイベントを開催するほか、年1回開催されている音更町芸術祭にも積極的に参加するなど、歌唱の技術向上を図り、地域活動に貢献された。さらに、平成30年から令和4年3月まで音更町文化連盟副会長、令和4年4月から現在までは同会長を務め、音更町の文化の発展に大きく貢献された。
団体	音更三絃会 代表 三輪 キエ 昭和45年1月設立	昭和45年に会を発足し、毎月2回例会を開催して民謡の技術向上に努めるとともに、平成26年から町内各所の老人ホームへの慰問を行っている。また、地域の祭典及び町内会芸能発表会、高齢者学級など多くの行事に参加し、地域活動に貢献された。
団体	柳吟会 代表 高金 國男 昭和52年4月設立	昭和52年に会を発足し、毎月3回例会を開催して吟技の研鑽に努め、詩吟の技量向上を図るとともに、詩吟の普及に貢献された。また、町内だけではなく十勝管内の詩吟大会に出場するほか、音更町文化祭など多くの行事に参加し、地域活動に貢献された。
団体	睦瞳会 代表 大浦 睦子 昭和51年4月設立	昭和51年に会を発足し、毎月2回生け花の演習と作品作り、毎年1月には初生会を開催し、生け花やフラワーアレンジメントの技術向上に努めている。また、音更町文化祭や各種花展に出品するほか、病院や学校などの施設で生け花などの指導を行い、地域活動に貢献された。
団体	音更バレエ研究会 代表 米谷 充代 昭和53年4月設立	昭和53年に会を発足し、毎週2回例会を行い、会員のバレエの技術向上に努めているほか、バレエを通して青少年の健全育成に寄与している。また、音更町文化協会主催各行事のほか、町内にとどまらず、十勝管内で開催されている多くの行事に参加し、地域活動に貢献された。

② 文化奨励特別賞：(音更町の文化の振興発展に貢献し、その功績が特に顕著な個人又は団体を表彰)

該当なし

イ 音更町スポーツ賞等

[音更町のスポーツの分野において優秀な成績を収めた者及びスポーツの振興に寄与した個人又は団体を表彰]

① スポーツ賞（全国・全道規模の大会で優秀な成績・記録を収めた個人又は団体）

【個人】

氏 名	年 齢	所 属	種 目
土井 理央	12	木野東小学校	トランポリン
石川 栞	13	緑南中学校	陸上
加藤 湊	13	下音更中学校	空手
山田 和生	15	音更中学校	陸上
市山 ひおり	17	帯広三条高等学校	カーリング
市山 ひまり	17	帯広三条高等学校	カーリング
藤原 睦月	19	明治大学	バドミントン

【団体】

団 体 名	種 目
R・Yスパークス（12名）	バレーボール
下音更ウィングス（12名）	バレーボール
音更ハンドボールクラブ（13名）	ハンドボール
共栄中学校女子ハンドボール部 【十勝合同女子】（3名）	ハンドボール
駒場中学校女子ハンドボール部 【十勝合同女子】（4名）	ハンドボール
緑南中学校スピードスケートリレーチーム（5名）	スピードスケート

② スポーツ奨励賞（全国・全道規模の大会で上位入賞、十勝大会で優秀な成績）

【個人】

氏 名	年 齢	所 属	種 目
窪寺 恭輔	17	帯広柏葉高等学校	水泳
野村 心葉	17	白樺学園高等学校	陸上

③ スポーツ功労賞（本町におけるスポーツの普及振興に貢献のあった個人又は団体）

【個人】

氏 名	年 齢	所 属	種 目
吉田 健治	76	音更町体操協会	体操

(4) 研修会等への参加の状況

教育委員会では、各種研修会に参加し、他市町村教育委員会との情報交換や、研修に努めているほか、教育行政に関する調査・研究を行っています。

令和5年度は、北海道市町村教育委員会研修会に参加し、教育をめぐる現状や課題について学ぶとともに、教育委員の役割について理解を深めています。また、札幌市立星友館中学校を視察し、国籍を問わず、未就学者や不登校経験者など様々な理由により十分学ぶことができなかった方に対し、学のセーフティネットとして、生徒の多様性を尊重しながら学校運営を行う様子や体制などについて情報を得ています。

年月日	場 所	研 修 会 等	参加者
R5. 7. 20 ～7. 21	札幌市	視察研修（札幌市立星友館中学校） 第58回北海道市町村教育委員会研修会	5名 (事務局1名 を含む)
R5. 12. 26	ZOOM 会議	十勝管内市町村教育委員会教育委員研修会	2名

(5) 学校訪問の状況

ア 小中学校の訪問

教育委員会では、教育長、教育委員全員と事務局職員合わせて9名で町内全小中学校を1校当たり1時間程度訪問し、それぞれの学校の取組について実情把握に努めています。

校長から学校経営の重点及び懸案事項の説明を受けた後、授業参観を行い、子どもたちの学びの様子を見学しています。その後、校長・教頭との意見交換を行い、学校運営・教育環境等様々な点について現状と課題を把握し、より良い教育環境の整備に努めています。また、学校訪問の際には、一部の学校において学校給食の試食も行っております。

令和5年度は、「子どもが主語となる授業改革の取組」を重点テーマに訪問し、児童生徒に求められる資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの取組などについて意見交換を行うとともに、教職員と教育委員の顔合わせとして、職員室において教育長からの挨拶と各教育委員の自己紹介等を行い、交流を図っております。

訪問年月日	訪 問 学 校 名
R5. 6. 16	下士幌小学校、緑南中学校、東士幌小学校
R5. 6. 27	音更中学校、駒場中学校
R5. 7. 3	鈴蘭小学校、下音更中学校、下音更小学校
R5. 7. 14	音更小学校、木野東小学校
R5. 8. 28	共栄中学校、柳町小学校、緑陽台小学校
R5. 8. 29	駒場小学校、西中音更小学校、東士狩小学校

イ 北海道音更高等学校（以下「音更高校」）の訪問

本町唯一の高校である音更高校は、これまでも地域を担う人材を多く輩出し、町と連携した生涯学習プログラムの推進や地域社会と連携した教育、地域活性化に寄与する活動を展開しています。今後も地域に開かれた特色のある高校づくりを継続し、入学希望者増につながる取組を支援していくため、意見交換会を令和6年1月26日に開催し、音更高校の現状や課題、今後の展望等について情報共有を行いました。

（6）町民への情報提供の状況

教育委員会では、教育に関する制度や手続、行事等の周知を図るために、様々な情報を提供しています。

今後もホームページや町広報紙等を活用し、情報提供の方法を工夫しながら、より一層わかりやすく様々な情報を提供していく必要があると考えています。

ア 広報紙の活用

毎月発行している広報「おとふけ」で教育に関する各種情報の提供に努めました。

（主な掲載情報）

- ・「生涯学習のまど」〇〇JCオープンカレッジ等の各種講座の紹介
- ・「図書館通信」新着・おすすめ図書を紹介、図書館行事のお知らせ
- ・その他（小規模特認校の紹介、各種助成制度の案内等）

イ ホームページの活用

ホームページの管理・運営を通じて、教育委員会の活動を町民にお知らせしています。

（主な掲載情報）

- ・音更町の教育目標
- ・音更町の教育行政執行方針
- ・小中学校ホームページ
- ・学校教育関係（区域外就学、就学援助等）
- ・社会教育関係（施設の紹介・空き状況/予約、生涯学習等）
- ・図書館（蔵書検索）
- ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書
- ・総合教育会議の会議結果（要旨）
- ・定例の教育委員会会議の会議結果（要旨）
- ・社会教育委員協議会等の審議会の会議結果（要旨）

ウ 音更町公式ライン等のSNSの活用

町公式ライン、X、インスタグラムなどのSNSを活用し、各種事業の開催告知や実施状況などを随時発信しています。

(7) 教育委員会の組織

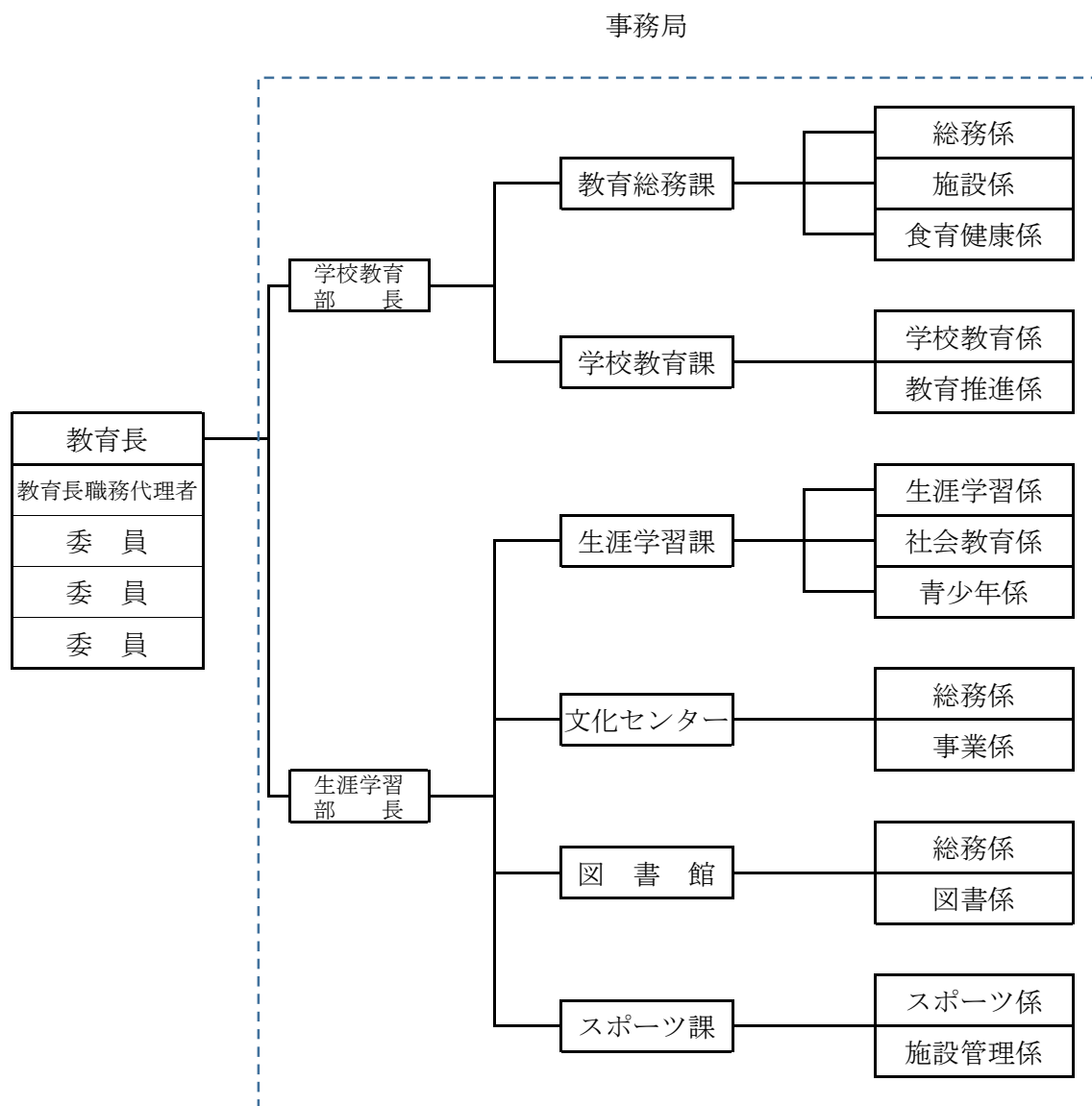
教育委員会

(令和6年4月1日現在)

職名	氏名	就任日	期数	現任期満了日
教育長	福地 隆	令和2年4月1日	3期目	令和9年3月31日
教育長職務代理者	田中 義博	平成16年11月2日	5期目	令和6年11月1日
委員	種川 健	平成27年11月5日	3期目	令和9年11月4日
委員	川井 麗子	平成28年11月2日	3期目	令和8年11月1日
委員	高橋 敬貴	令和4年1月20日	1期目	令和8年1月19日

教育委員会の組織

(令和6年4月1日現在)



2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上

音更町教育委員会では、教育行政執行方針において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけ、それらを活用できる学力を育むことが重要であると捉え、学校と家庭が連携して、「生きる力」の基盤となる確かな学力の向上を推進していくこととしています。その取組を進める上で、子どもの学力の傾向を把握して課題を捉えるために、全国学力・学習状況調査に参加し、小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語、算数、数学について全数調査を行っております。さらに児童・生徒質問紙についてのクロス集計も行い、その分析結果を活用しています。

① 児童生徒の学力の現状と課題

令和5年度調査の分析・考察

【小学校】

<総評>

国語、算数ともに全国・全道平均を下回る結果となった。国語は全国平均を4.2ポイント、算数は全国平均を7.5ポイント下回る結果となった。

前年度も国語、算数ともに全国・全道平均を下回っており、近年は落ち込みが見られる。

<学習指導要領の内容・領域・評価の観点・問題形式>

- 国語は、学習指導要領における「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の全てが全国平均を下回っている。

また、「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」、「読むこと」は、いずれも全国平均を下回り、特に「読むこと」は全国平均を8.5ポイント下回ったほか、問題形式別に見ると、記述式での正答率が全国平均を6.7ポイント下回る結果となった。

- 国語の問題で全国と比較し、正答率が最も低かった問題は、「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題で全国平均を8.5ポイント下回った。

また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題のうち、「漢字を使って書き直す」設問であった。

- 算数は、全領域・評価の観点において全国平均を下回っている。その中で、一番低かったのは、「図形」の領域で、「高さが等しい三角形に底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題で全国平均を9.4ポイント下回った。

また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「正方形の意味や性質を理解しているかどうかをみる」問題であった。

- 算数は、全16問中13問で無回答率が全国平均を下回っており、粘り強く問題と向き合っている。
- 国語、算数とも問題形式に注目すると正答率が低い、無回答率が高かったのは、いずれも自分の考えを記述する問題であることから、日々の学習の「振り返り」や「学んだことの要約」など、自分の言葉で表現する機会の積み重ねなどが必要である。

【中学校】

<総評>

近年、国語、数学ともに全国・全道平均を上回っていたが、今年度は若干下回る結果となった。国語は全国平均を2.8ポイント、数学は全国平均を2ポイント下回る結果となった。また、4年ぶりに実施された英語については、全国・全道平均を下回る結果となった。

<学習指導要領の領域・評価の観点・問題形式>

- 国語は、学習指導要領における「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の全てが全国平均を下回り、特に、「書くこと」において、全国平均との差が大きかった。
- 国語の問題で全国と比較し、正答率が最も低かった問題は、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問題で全国平均を12.3ポイント下回った。
また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる」問題で全国平均を1.9ポイント上回った。
- 数学は、学習指導要領の領域別では、「数と式」、「データの活用」が全国平均を上回り、「図形」「関数」などは全国平均を下回った。
- 数学の評価の観点別では、「知能及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」のいずれも全国平均を下回った。
- 数学の問題で全国と比較し、正答率が最も低かった問題は、「結論が成り立つための前提を、問題解決の課程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明することができるかどうかをみる」問題で全国平均を6.8ポイント下回った。
また、全国と比較し、正答率が最も高かった問題は、「自然数の意味を理解しているかどうかをみる」問題で全国平均を12.9ポイント上回った。
- 国語、数学とも問題形式に注目すると正答率が低い、無回答率が高かったのは、いずれも記述する問題であるが、国語においては、「根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題に課題があり、説明の仕方を例示して考えさせるなど、生徒の実態に即して記述の仕方の定着を図る必要がある。
- 英語は、学習指導要領の領域別では、「読むこと」において、全国平均を下回ったものの、全道平均を0.2ポイント上回る結果となった

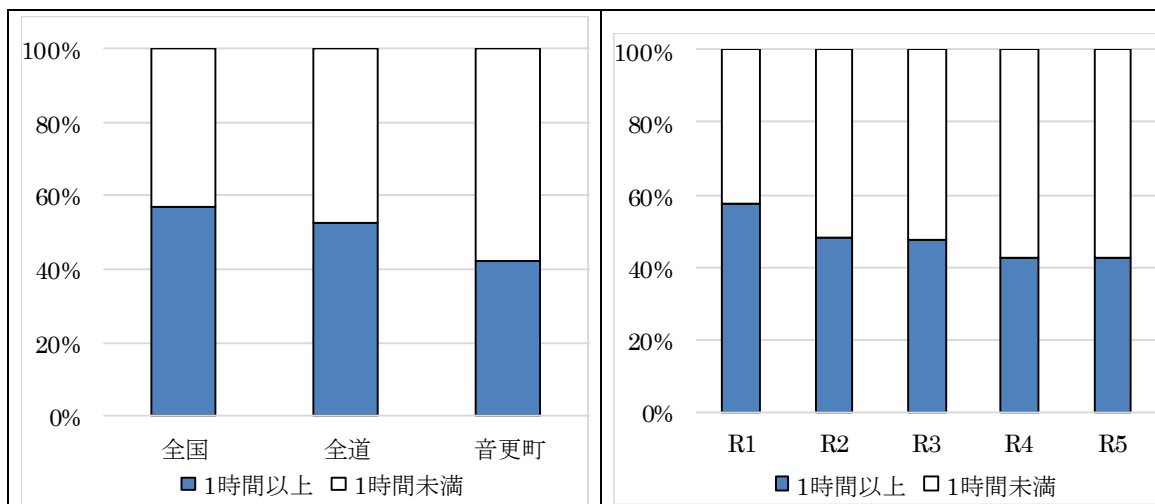
【児童・生徒質問紙】

1 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

<小学校>

【令和5年度】

【経年比較】

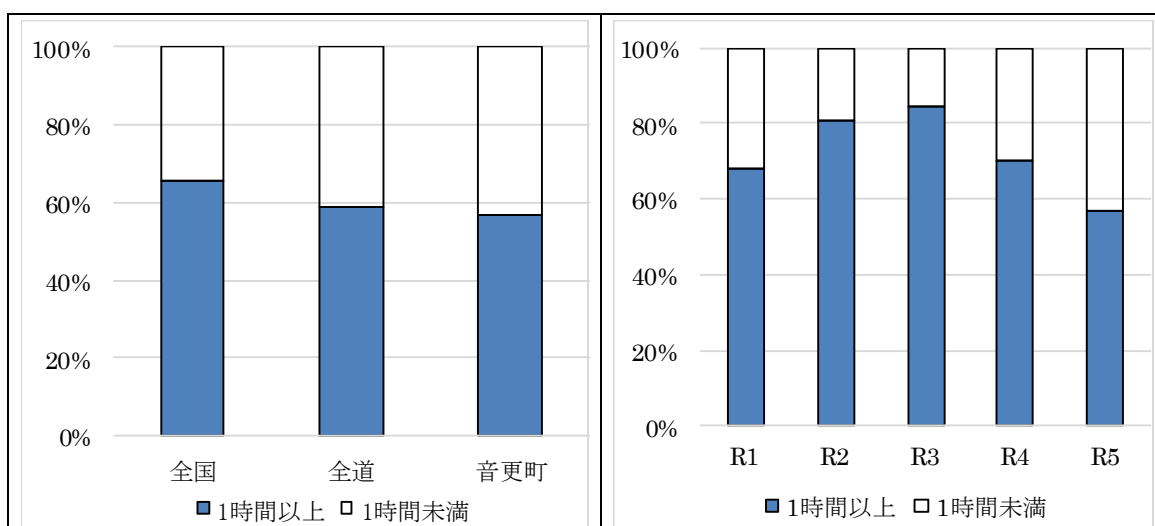


「1時間以上勉強をしている」と回答した割合は、42.3%で全国・全道平均を下回った。経年比較では、「1時間以上勉強をしている」との回答が近年、減少しており、前年度を0.5ポイント下回った。なお、6年生児童350人中130人(37.1%)が、勉強時間を「30分以上、1時間より少ない」と回答している。各学校では、授業と連動した家庭学習のほか、タブレット端末等を効果的に活用した家庭学習の取組が求められる。

<中学校>

【令和5年度】

【経年比較】



「1時間以上勉強をしている」と回答した割合は、57.1%で全国平均を8.7ポイント下回った。また、全体の23.4%が「2時間以上、3時間より少ない」と回答し、全道平均を上回った。経年比較では、「1時間以上勉強をしている」と回答した割合が、50%を超える水準を維持しているものの減少傾向にあり、前年度を12.9ポイント下回った。各学校では、家庭での学習習慣の定着に向けて、自分で計画的に学習できるよう指導する必要がある。

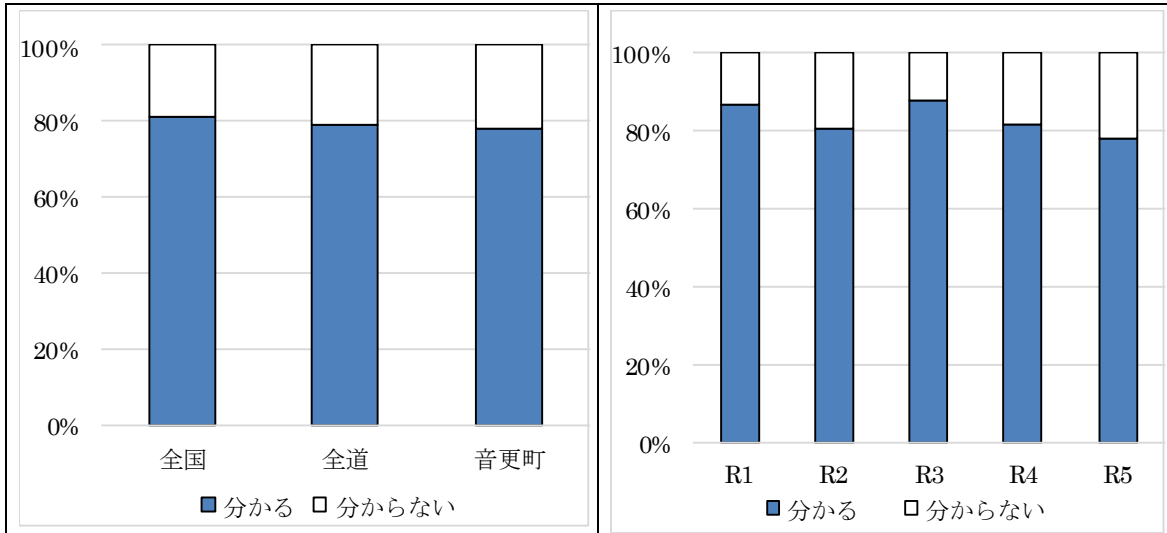
2 算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。

※グラフの「分かる」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和5年度】

【経年比較】

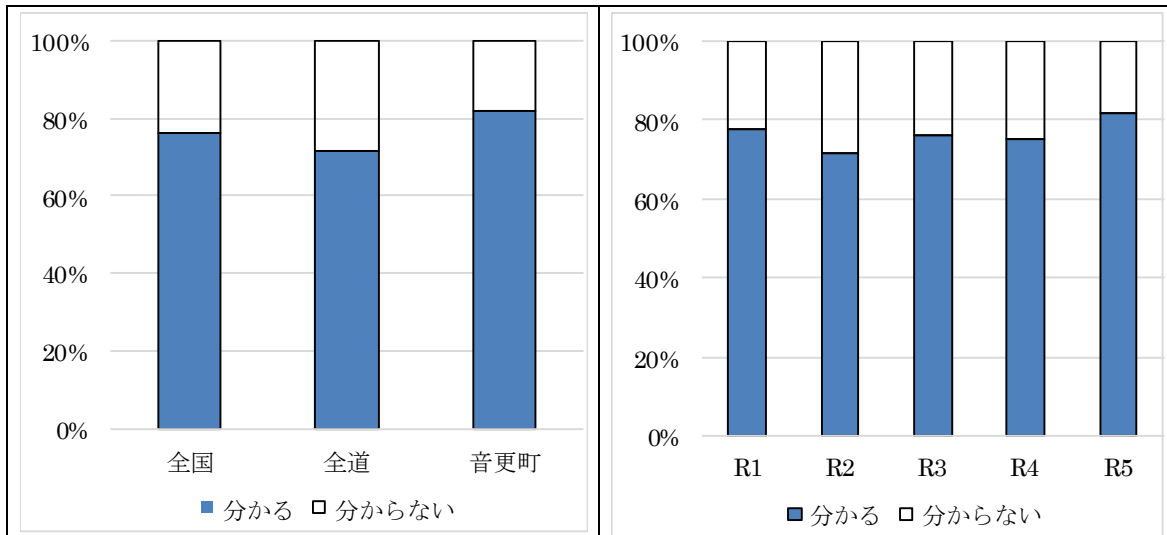


「分かる」と回答した割合は78.3%で全国平均を2.9ポイント、全道平均を0.9ポイント下回った。経年比較では、近年、「分かる」との回答率が80%を超え、高い水準を維持していたが、前年度を3.1ポイント下回り、「分からない」と感じる児童が増えている。各学校では、児童が探求したい課題を設定し、主体的な学びを推進する取組が必要である。

<中学校>

【令和5年度】

【経年比較】



「分かる」と回答した割合は、81.8%で全国平均を8.5ポイント、全道平均を10.5ポイント上回った。経年比較では、「分かる」との回答率が80%を超え、70%台の高水準を維持してきた近年の中で最も高い割合となった。各学校では、引き続き生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促す取組が必要である。

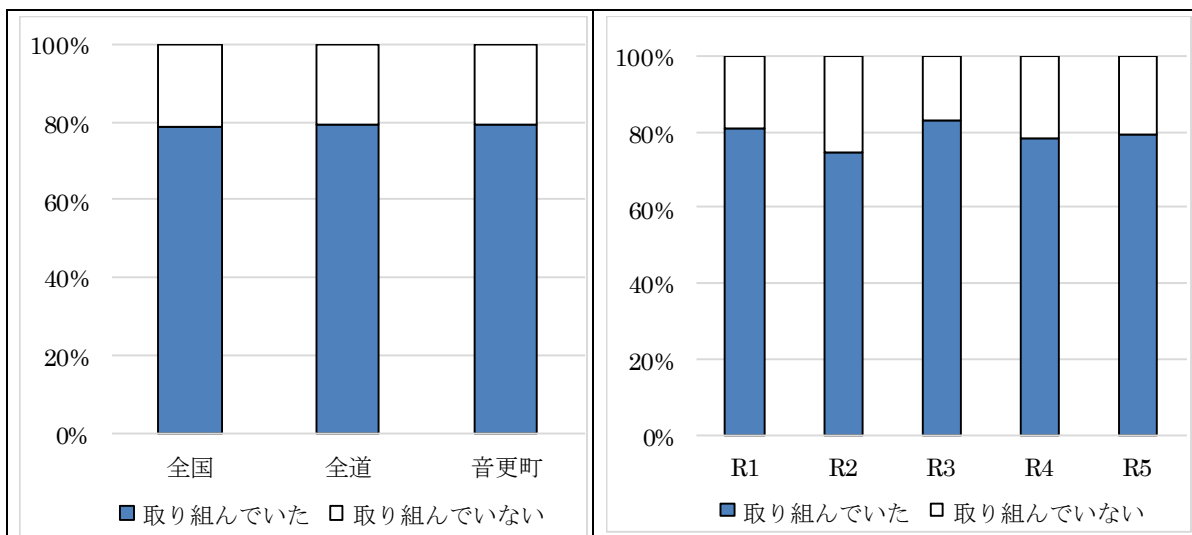
3 昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いませんか。

※グラフの「取り組んでいた」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和5年度】

【経年比較】

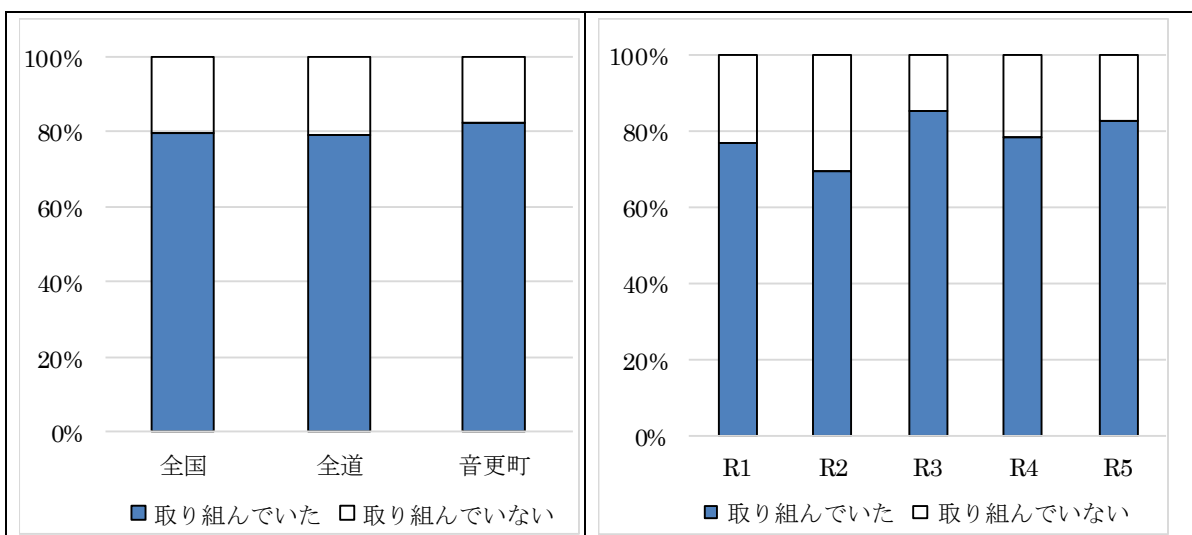


「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、79.4%で全国平均を0.6ポイント上回り、全道平均と同水準だった。経年比較では、「取り組んでいた」との回答が前年度を1.0ポイント下回ったが、高い水準を維持している。各学校では、主体的に学習に取り組めるよう、自分の学びや変容を自覚できる場面の設定が重要である。

<中学校>

【令和5年度】

【経年比較】



「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、82.0%で全国平均を2.8ポイント、全道平均を3.4ポイント上回った。経年比較では前年度を3.8ポイント上回り、高い水準を維持している。小学校同様、主体的に学習に取り組めるよう、自分の学びや変容を自覚できる場面の設定が重要である。

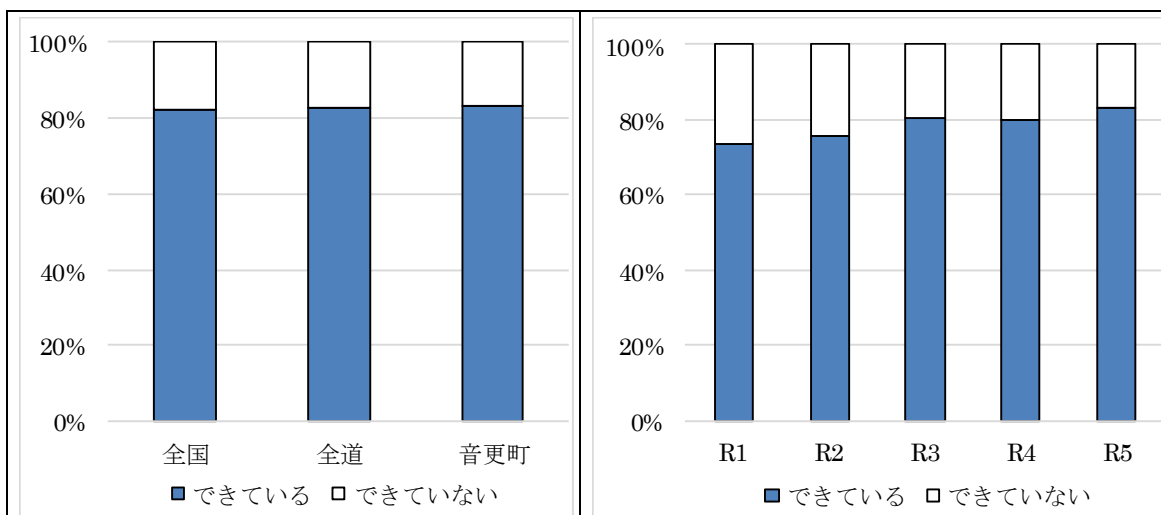
4 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

※グラフの「できている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和5年度】

【経年比較】

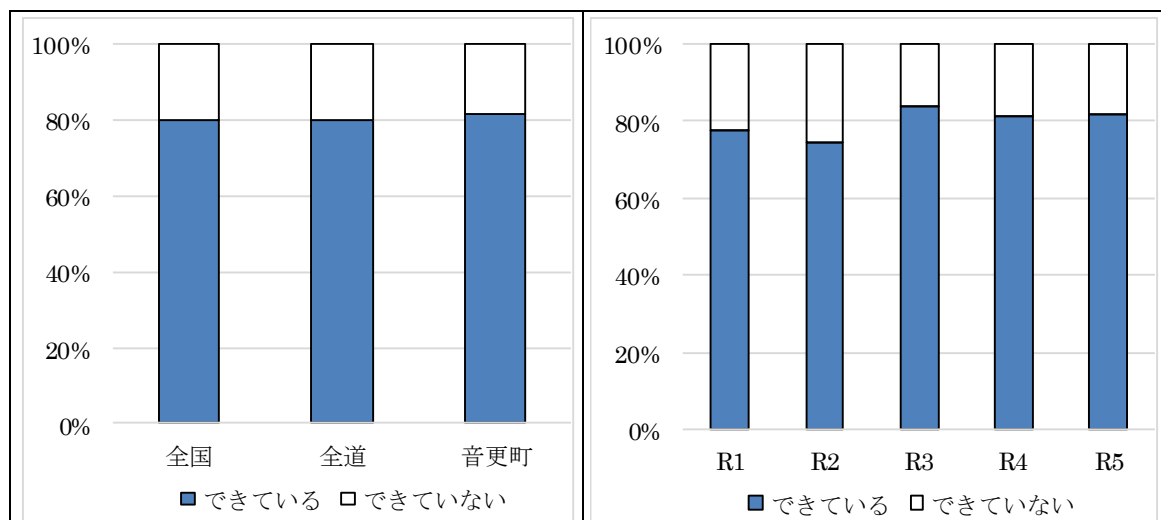


「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は、83.1%で全国平均を1.3ポイント、全道平均を0.7ポイント上回った。経年比較では、前年度を3.0ポイント上回り、近年、80%を超える水準を維持している。各学校では、学習支援アプリ等ICTを活用した「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一層の推進が求められる。

<中学校>

【令和5年度】

【経年比較】



「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は81.0%で、全国平均を1.3ポイント、全道平均を1.8ポイント上回った。経年比較では、近年、「できている」との回答が80%台で推移しており、小学校同様ICTを活用した「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一層の推進が求められる。

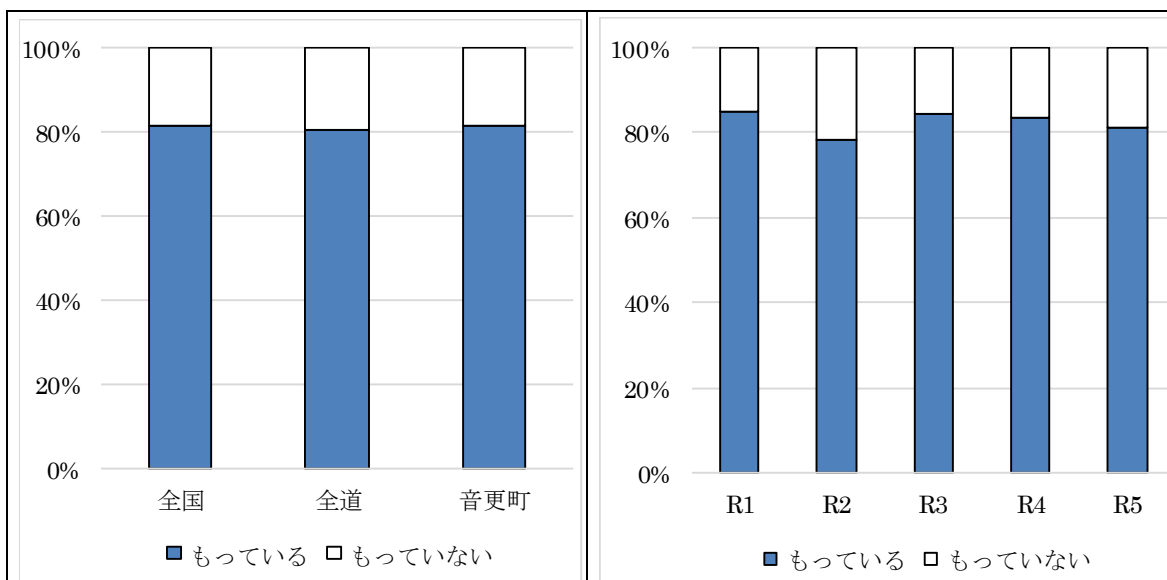
5 将来の夢や目標をもっていますか。

※グラフの「もっている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和5年度】

【経年比較】

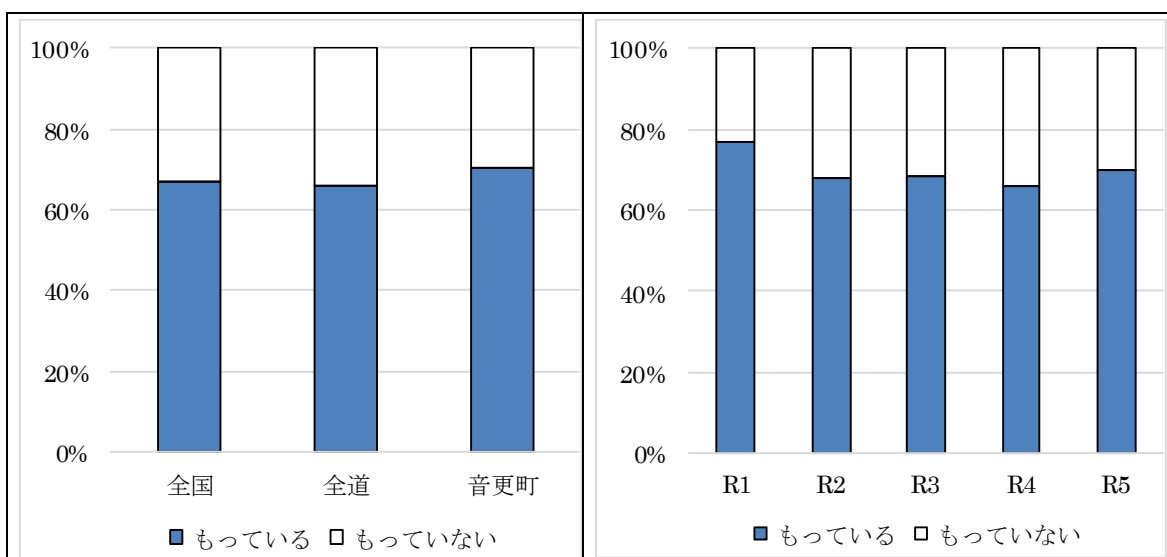


「将来の夢や目標をもっている」と回答とした割合は、81.1%で全道平均を0.7ポイント上回った。経年比較では、「もっている」との回答が近年、減少傾向で推移しているものの、80%台を維持している。引き続き学級活動や総合的な学習の時間などにおいて、キャリア教育の計画的な推進が求められる。

<中学校>

【令和5年度】

【経年比較】

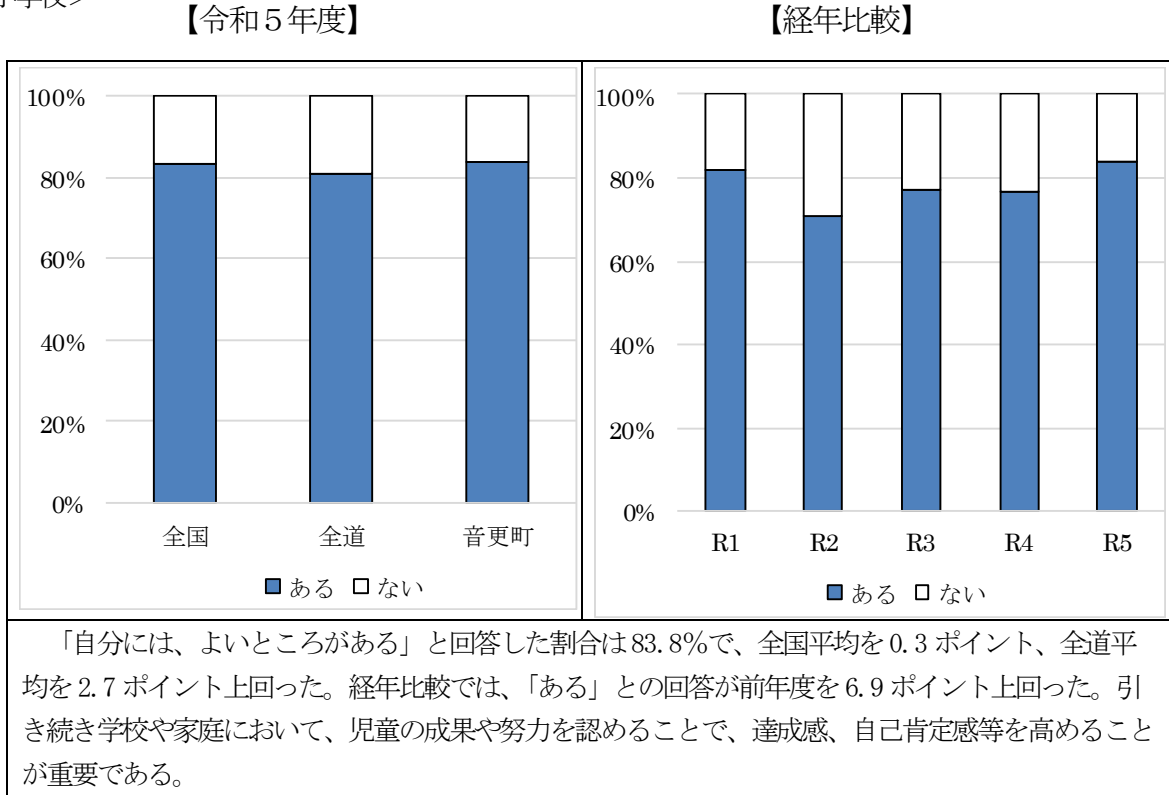


「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、69.8%で全国平均を3.5ポイント、全道平均を4.0ポイント上回った。経年比較では、近年、減少傾向にて推移していたが、今年度は前年度を4ポイント上回った。小学校と比較すると割合が低いことから、更に将来への展望、挑戦心などを高めしていくための指導が求められる。

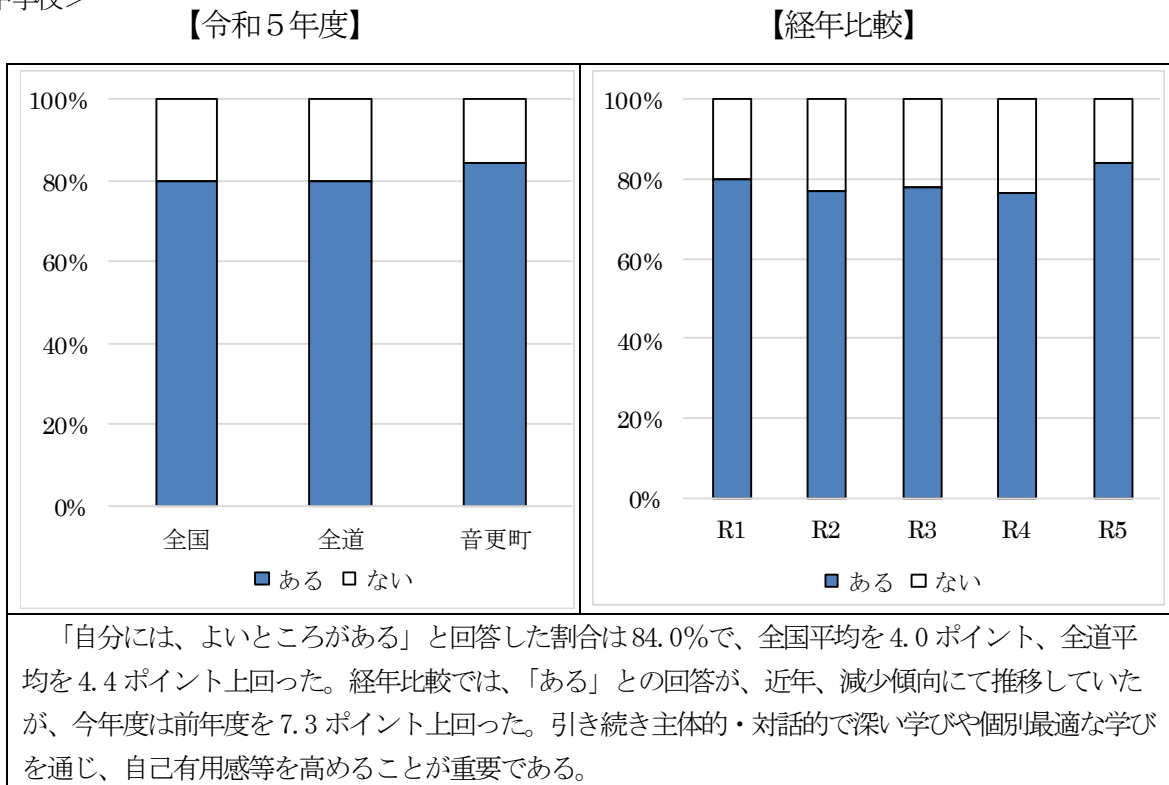
6 自分には、よいところがあると思いますか。

※グラフの「ある」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>



<中学校>



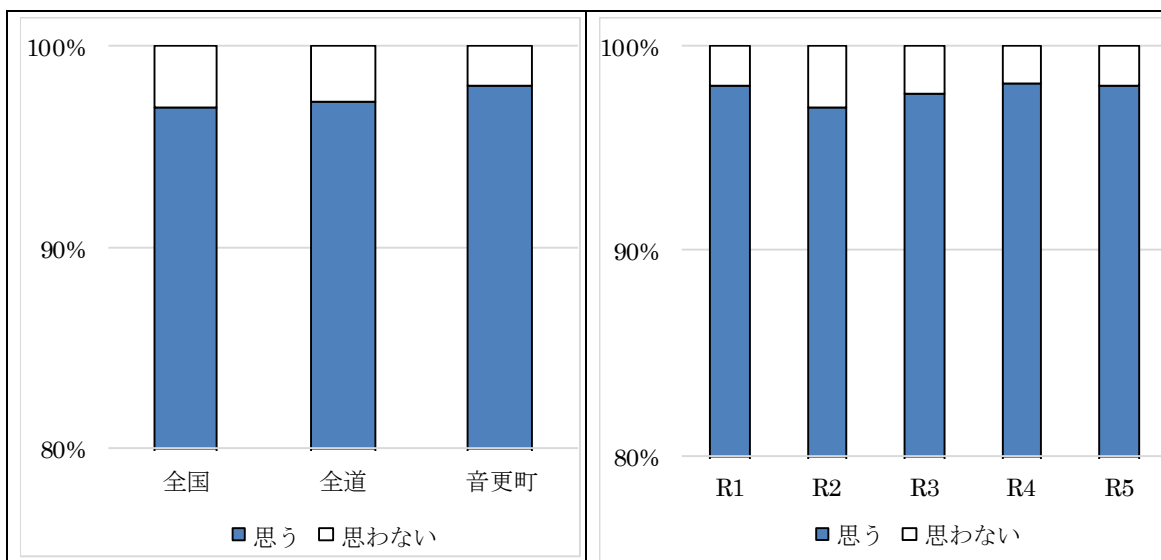
7 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

※グラフの「思う」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和5年度】

【経年比較】

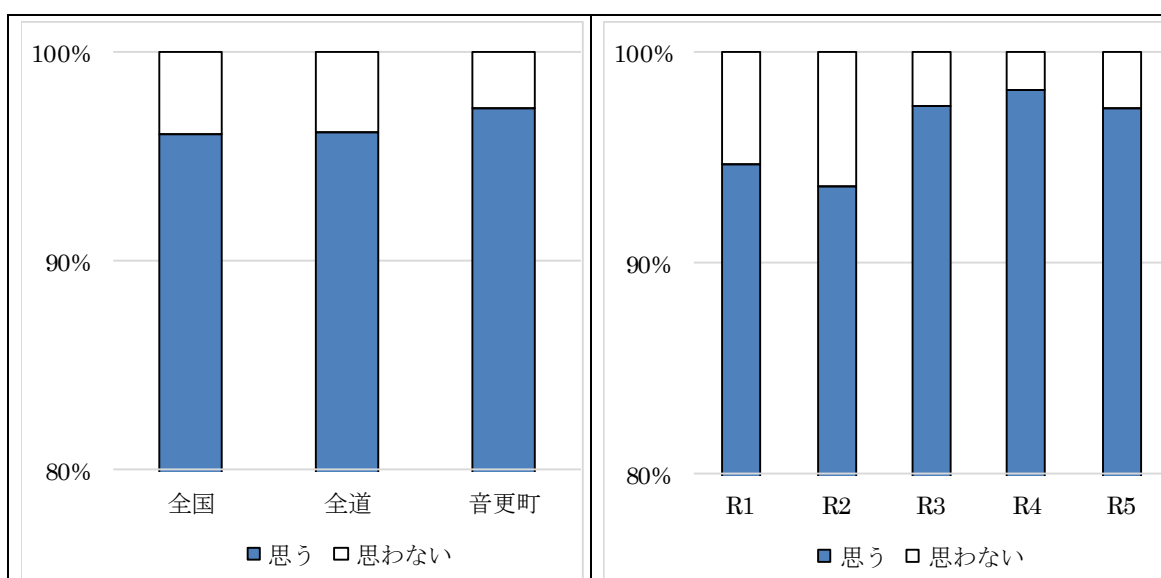


「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と回答した割合は、98.0%で、全国平均を1.1ポイント、全道平均を0.9ポイント上回った。経年比較では、「思う」との回答が前年度を若干下回ったが、高い水準を維持している。引き続き道徳教育の充実を図るとともに、教職員がアンテナを高くし、日常生活のあらゆる場面を捉え、他者を尊重する態度を養う指導が必要である。

<中学校>

【令和5年度】

【経年比較】



「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と回答した割合は、96.2%であり、全国・全道平均の95.5%を若干上回った。経年比較では、「思う」と回答した割合が前年度を下回ったが、いじめに対する認識は高い水準を維持している。なお、小学校同様、引き続き道徳教育の充実を図るとともに、教育活動全体を通して他者を尊重する態度を養う指導が必要である。

【クロス集計分析】※各教科の正答率と児童生徒用質問紙の調査結果をかけ合わせて集計・分析したもの

- 「国語、算数・数学の勉強は大切だと思うか」、「国語、算数・数学の授業内容はよく分かるか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率を上回っている。特に小学校では、30ポイント以上高い結果であった。
- 「家で自分で計画を立てて勉強しているか」、「学校の授業以外に1時間以上勉強しているか」という質問に対して「よくしている」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「全くしていない」と回答した児童生徒の正答率を約10ポイント上回っている。
- 「学校に行くのは楽しいか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率を10ポイント以上上回っている。
- 「朝食を毎日食べるか」、「毎日同じ時刻に起きているか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率を20ポイント以上上回っている。

② 学力向上のための取組

◆教育委員会の主な取組

- 1 全国学力・学習状況調査の分析と検証を行い、「音更町の学力の傾向と改善のポイント」としてまとめ、学習指導の改善や学習意欲の向上に資する基礎資料を提示
- 2 特別支援教育の推進のため、特別支援教育学習支援員を小中学校12校に35人を配置、複式教育学習支援員は2人配置し、小学校4校を巡回
- 3 令和5年度は小学校1、2年生で30人を超える学級を有する小学校に対し町費負担教諭3人を配置
- 4 教育相談や各種指導助言業務、学校と教育委員会の連携のため、教育推進員2人と学校教育相談員1人を配置
- 5 指導方法工夫改善事業、少人数学級実践研究事業（小5・中1）等を活用し、教諭の加配等による学習環境の向上を実施
- 6 教職員の資質の向上を図るため、教職員研修（校内研修、道内研修、実践指定校事業）への補助と研修の充実
- 7 「家庭学習のすすめ」を改定し、児童生徒及び家庭に配布
- 8 学級文庫を小学校6校に配置し、夏・冬休みに本の入替を実施、また、移動文庫として小学校5校に出向き、毎月本の入替と低学年を対象とした読み聞かせを実施
- 9 退職校長と連携し、長期休業中（夏季・冬季）に「熟年先生から学ぼう講座」を実施
- 10 外国語でコミュニケーションを図る基盤となる資質・能力を育成するため、小中学校の外国語授業に外国語指導助手2人を派遣
- 11 GIGAスクール構想に基づき町内全ての児童生徒にタブレット端末を配布し、小中学校において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が両立する授業を実践
- 12 小学校の全児童を対象に学習支援アプリを導入し、タブレット端末の効果的な活用を促進

◆学校の主な取組

- 1 全国学力・学習状況調査やCRT（標準学力検査）の分析結果に基づく学校改善プランの作成と組織的な取組の推進
- 2 分かる授業（課題提示と振り返りの時間の確保）を目指す授業改革

- 3 ICTを活用した子どもを主語とした授業展開
- 4 特別に配慮を要する児童生徒等に対する補足的な学習サポートや習熟度別指導の充実
- 5 加配教諭、町費負担教諭及び学習支援員等による学習指導の充実
- 6 教職員の資質の向上を図るため、校内研修の充実と各種研修への積極的な参加
- 7 宿題や家庭学習専用ノートのほか、デジタルドリルを活用した家庭学習の充実
- 8 「家庭学習のすすめ」を活用した家庭での学習習慣の啓発
- 9 幼保・小・中の円滑な接続による学びの連続性の確保

◆家庭や地域との連携

- 1 保護者及び地域住民に対する学習の機会及び情報の提供
- 2 学校と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」などによる基本的な生活習慣の定着と学習習慣の確立
- 3 リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動

◆地域学校協働活動の推進

- 1 地域（主に町内）人材を活用した外部講師の確保と充実による多様な学習機会の提供
- 2 ふるさと教育や、主権者教育などの社会参画教育を通じた「ふるさと音更」を愛する人材の育成
- 3 キャリア教育による、「ふるさと音更」の将来を担う子どもたちへの勤労観、職業観の醸成

(2) 健やかな体の育成

体力とは、人間の発達・成長を支え、体を動かす原動力であると同時に、健康を維持する上でも必要なものです。また、体力は知力や意欲・気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、体力は「生きる力」の重要な要素の一つとなります。その取組の一つとして、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を、小学校5年生と中学校2年生を対象に、全数調査を実施しています。また、調査結果を分析・考察した結果を活用して、本町児童生徒の体力・運動能力向上を推進しています。

① 児童生徒の現状と課題

令和4年度調査の分析・考察

【小学校5年男子】

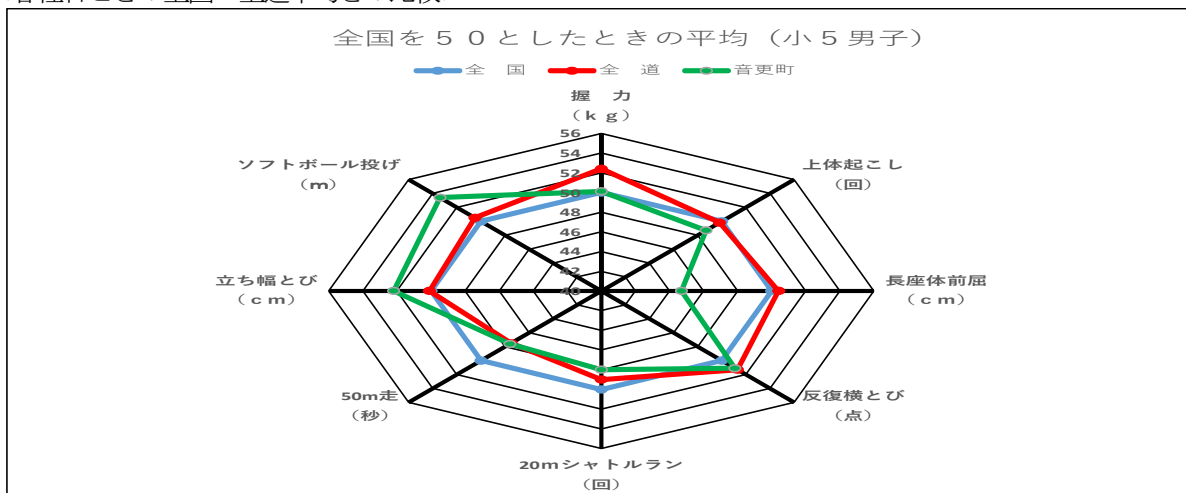
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
全国	16.21	18.86	33.79	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
全道	17.15	18.72	34.15	41.46	43.92	9.85	151.15	20.73	52.23
音更町	16.24	18.09	29.06	41.31	41.79	9.83	156.15	23.10	50.78
(T得点)	50.1	48.7	44.7	51.1	48.0	47.6	52.2	53.4	48.4

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国・全道平均をともに下回り、前年度の全国値との差が広がる結果となった。
- 各種目では、全8種目中「握力」「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の4種目が、全国平均を上回る結果となったほか、「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の2種目は、全道平均も上回った。
- 課題は、「上体起こし」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」である。特に「長座体前屈」は、全国平均から4.73cm、全道平均から5.09cm下回り、前年度より差が広がる結果となった。
- 小学校男子の課題への対応として、「筋持久力」「柔軟性」「全身持久力」「走力・スピード」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 児童質問紙では、「運動が好き」「体育の授業は楽しい」が全国・全道平均を上回った。また、「運動部や地域のスポーツクラブへの所属」も全道平均を大きく上回っており、運動の必要性や体力向上への意識が高い児童が多い。今後も生涯、運動を楽しめる意識づけや環境づくりを心がけた指導が必要である。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



【小学校5年女子】

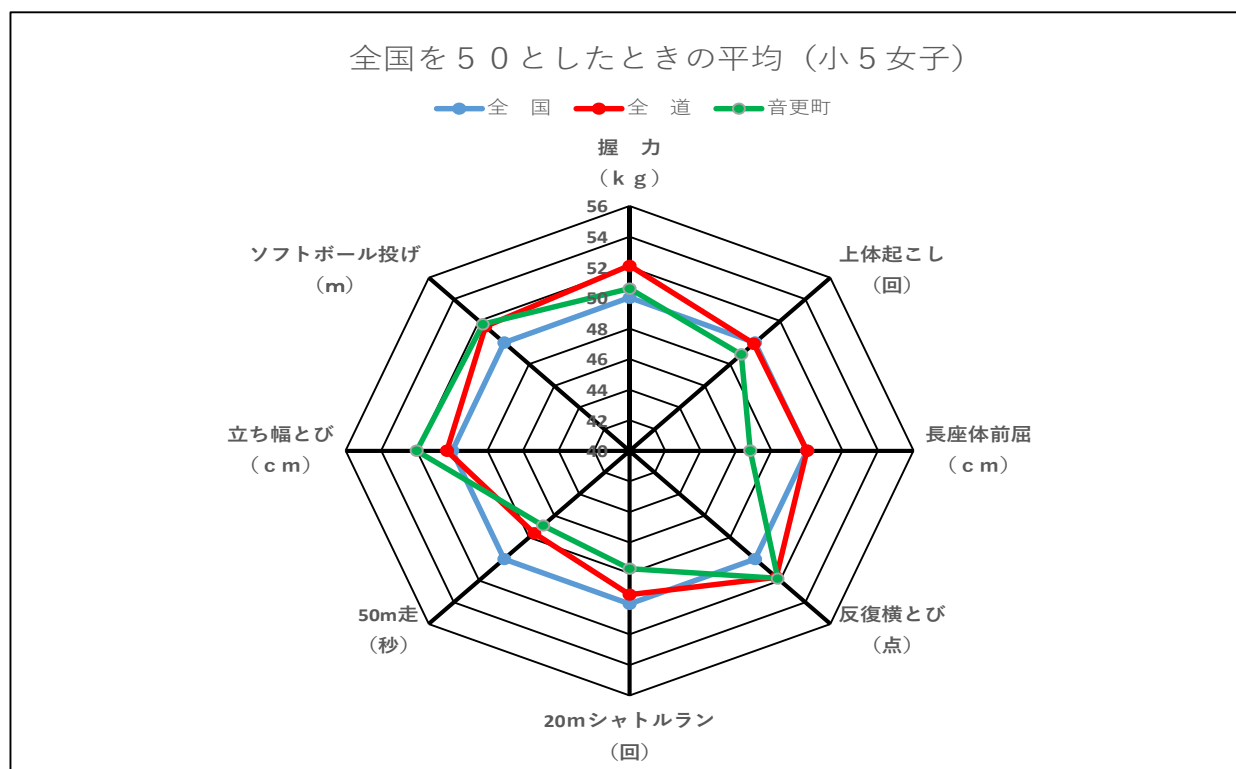
<各種目の記録とT得点の比較>

種 目	握 力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20mシャ トルラン	50m走	立 ち 幅とび	ソフトボー ル投げ	体 力 合計点
	(k g)	(回)	(c m)	(点)	(回)	(秒)	(c m)	(m)	
全 国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31
全 道	16.90	17.93	38.14	39.95	36.00	9.94	145.16	13.90	54.48
音更町	16.32	17.37	35.28	39.99	33.23	10.02	148.91	13.96	53.60
(T得点)	50.6	48.9	46.8	51.8	47.7	46.9	52.0	51.7	49.2

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国・全道平均を下回ったものの、前年度の全国値との差が縮まる結果となった。
- 各種目では、全8種目中「握力」「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の4種目が全国平均を上回ったほか、「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の3種目は全道平均も上回る結果となった。
- 課題は、「上体起こし」「20mシャトルラン」「長座体前屈」「50m走」である。「長座体前屈」は、全国平均を2.90cm、全道平均を2.86cm 下回ったものの、前年度から差が縮まる結果となった。
- 小学校女子の課題への対応として、「全身持久力」「柔軟性」「走力・スピード」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 児童質問紙では、「運動が好き」が全国・全道平均を上回ったほか、「体育の授業は楽しい」が概ね全国・全道平均と同水準であり、前年度より改善が見られる。今後も生涯、運動を楽しめる意識づけや環境づくりを心がけた指導が必要である。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



【中学校2年男子】

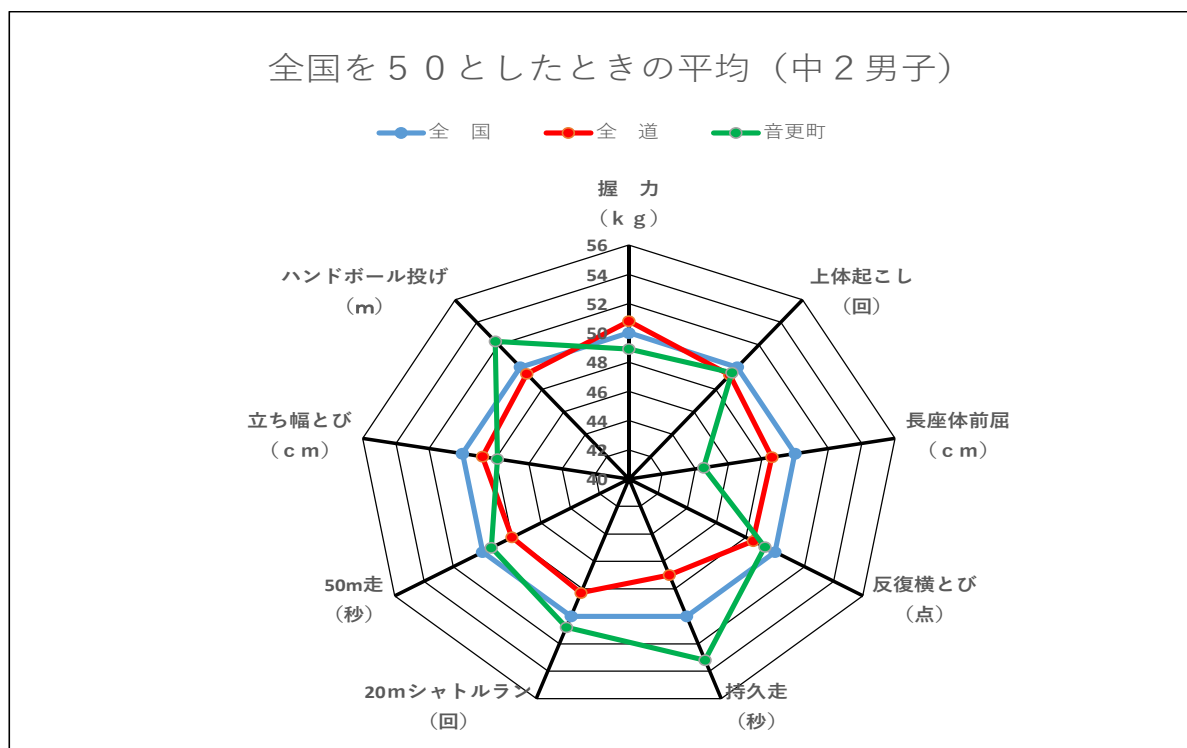
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
全道	29.59	25.31	42.33	49.70	431.39	73.63	8.28	193.37	19.92	39.63
音更町	28.19	25.45	37.69	50.45	386.56	80.10	8.12	190.62	21.69	39.28
(T得点)	48.9	49.5	44.5	49.3	53.2	50.8	49.4	47.9	52.3	48.4

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国・全道平均を下回り、特に全国平均との差が広がる結果となった。
- 各種目では、全9種目中「持久走」「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」の3種目が、全国・全道平均を上回る結果となった。
- 課題は、「長座体前屈」「立ち幅とび」である。前年度は全国平均を上回っていた「立ち幅とび」が全国平均を下回る結果となったほか、前年度も課題となっていた「長座体前屈」は、全国平均から6.18cm、全道平均から4.64cm下回り、差が広がる結果となった。
- 中学校男子の課題への対応として、「柔軟性」「瞬発性」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 生徒質問紙では、「運動が好き」が全国・全道平均を、「保健体育の授業は楽しい」が全国平均を上回り、運動の楽しさや体力向上への意識が高い。
今後も、運動への興味・関心を維持していけるよう、運動を楽しめる意識づけや環境づくりを心がけた指導が重要である。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



【中学校2年女子】

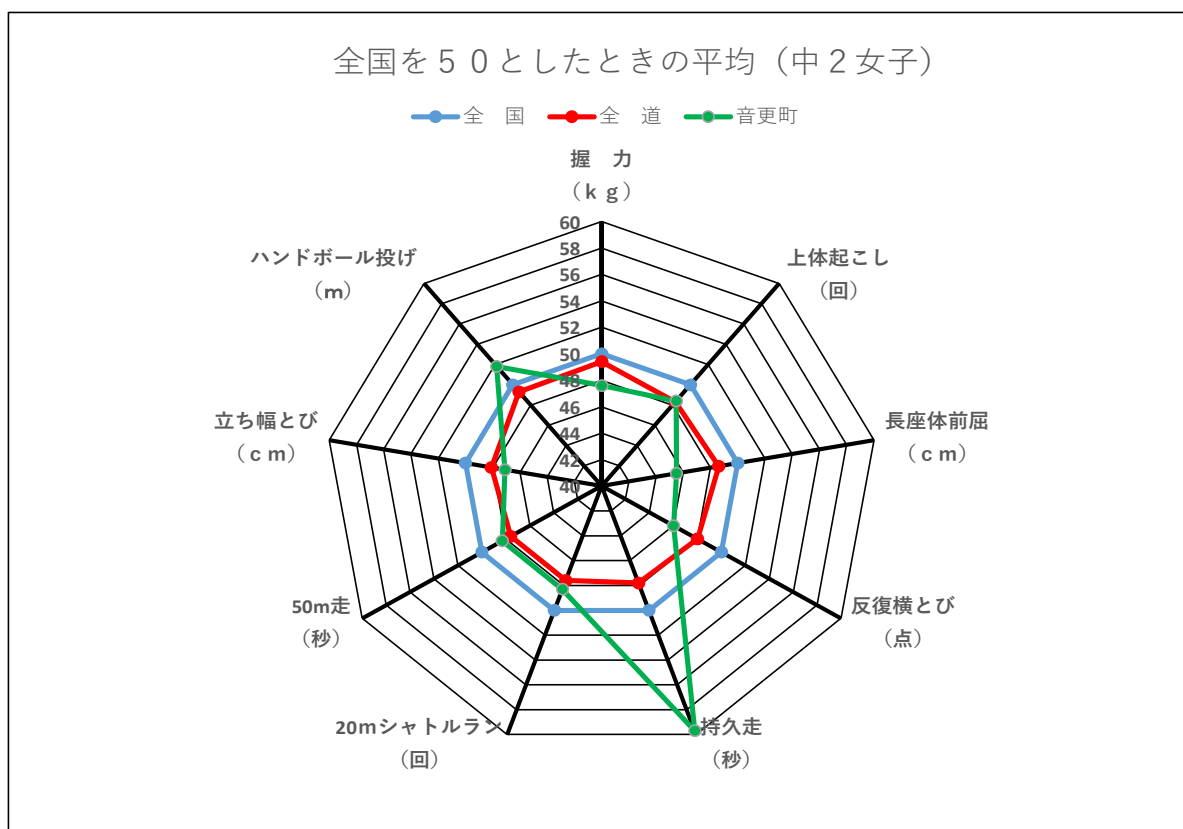
<各種目の記録とT得点の比較>

種目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	
全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42
全道	22.93	20.69	44.62	44.33	313.68	46.94	9.19	162.10	12.16	44.85
音更町	22.10	20.73	41.30	42.85	255.50	48.31	9.12	159.59	13.19	42.86
(T得点)	47.6	48.4	45.5	46.0	59.7	48.3	48.3	47.1	51.8	46.0

<分析と考察>

- 体力合計点は、全国・全道平均を下回り、特に全国平均との差が広がる結果となった。
- 各種目では、全9種目中「持久走」「ハンドボール投げ」が、全国・全道平均を上回る結果となった。
また、「上体起こし」「20mシャトルラン」「50m走」は、全国平均に及ばないものの、全道平均を上回る結果となった。
- 課題は、特に「長座体前屈」「反復横とび」「立ち幅とび」であり、全国・全道平均を大きく下回る結果となった。
- 中学校女子の課題への対応として、「筋力」「柔軟性」「敏捷性」「瞬発力」の向上を目指した指導の充実が必要である。
- 生徒質問紙では、「運動が好き」が全国・全道平均を下回り、「保健体育の授業は楽しい」が全国平均を上回ったものの、全道平均は下回る結果となったことから、積極的に運動に取り組む意欲を高める必要がある。

<各種目ごとの全国・全道平均との比較>



②体力向上のための取組

◆教育委員会の主な取組

- 1 体力・運動能力の向上、運動習慣の改善に向けた教材・教具の充実等、学校への支援
- 2 全国・体力運動能力、運動習慣等調査の分析結果を、体力向上の基礎資料として提示
- 3 体力づくり、健康づくりの振興（スポーツライフ、各種スポーツ教室、各種スポーツ大会の開催）
- 4 スポーツ指導者、リーダーの育成
- 5 スポーツの奨励及び顕彰（スポーツ大会参加補助、スポーツ賞等表彰）
- 6 町内スポーツ施設の整備充実
- 7 地産地消と食育の推進のため、おとふけ給食などを実施
- 8 体力向上「運動プログラム」による体育授業の充実
- 9 小学校体育エキスパート教諭による体力向上に向けた支援

◆学校の主な取組

- 1 「年間指導計画」に基づく学校全体の体力づくりの推進
- 2 体育的行事を通じた体力づくりの充実
- 3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を活用した組織的な体力向上の取組
- 4 体育（保健体育）の授業改革による基礎体力の向上と課題克服に向けた取組の充実
- 5 ICTを活用した体力づくりの取組
- 6 「体力づくり一校一実践」や「どさんこ元気アップチャレンジ」の取組
- 7 少年団活動や部活動の加入の奨励と運動習慣の確立
- 8 「年間指導計画」に沿った食に関する指導の充実（栄養教諭の活用）

◆家庭との連携による体力づくりの推進

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着と、帰宅後の生活習慣の改善に努め、リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動
- 2 運動習慣の大切さに対する意識を高め、自ら運動への関心・意欲を高める工夫
- 3 食育の推進等により、望ましい食習慣を身に付け、健康的な生活習慣を形成

(3) 豊かな心の育成

子どもたちの健やかな成長と心豊かな未来のためには、自立し、共に支え合いながら、善悪の判断・人を思いやる心・命や自然を大切にすること・ふるさとを愛する心などを育成することが大切です。このため、いじめや不登校などの問題については、教育活動全体を通じての指導や道徳教育の充実、学校、家庭、教育委員会などが連携した取組が必要です。

① いじめ・不登校の現状と課題

<いじめ>

平成29年3月に国の「いじめ防止等のための基本方針」等が改定されたことに伴い、平成30年には、町や各学校の「いじめ防止基本方針」を改定し、各学校においていじめ防止のための対策を進めています。

それら対策のうちの一つである、いじめに関するアンケート調査では、いじめの全貌を把握することは難しいという認識の下、児童生徒が「嫌な思い」を感じている場合についても、いじめとして認知する必要があるということから、「いじめ」を「嫌な思い」という表現にしています。

令和5年11月に実施したいじめに関するアンケート調査では、「4月以降に、仲間はずれや無視、たたかれる、悪口を言われる等の嫌な思いをしたことがある」と答えた小学生が454件、中学生では43件となっており、「嫌な思いは今でも続いている」と答えた小学生の事例が251件、中学生の事例が22件となっています。これらの事案については、各学校において教育相談を実施しており、令和6年3月までに解消しています。

また、「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答している児童生徒は、82.3%となっています。

いじめに関するアンケート結果の推移

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
嫌な思いをした（いじめられた）ことがある (単位：件)	小学生	543	541	528	430	454
	中学生	70	45	56	52	43
	計	613	586	584	482	497
嫌な思い（いじめ）は今でも続いている (単位：件)	小学生	184	189	225	167	251
	中学生	27	13	20	22	22
	計	211	202	245	189	273
いじめはどんな理由があっても許されない (単位：%)	小学生	86.8	86.8	85.3	83.3	84.8
	中学生	79.1	82.1	82.3	80.5	78.2
	計	84.1	85.1	84.2	82.3	82.3

<不登校>

令和5年度における不登校の状況は、小学生68人、中学生153人の合計221人であり、小学生、中学生とも増加しています。そのうち、教育支援センター（ふれあい教室、ふれあい柳町教室「ほっと」）への通級者は、小学生12人、中学生35人の合計47人で、前年度より通級者は増加しています。

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校ということだけで問題行動であると受け取られないよう配慮し、児童生徒の最善の利益を最優先に支援を行うことが重要であります。また、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路などを主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要もあります。

不登校の児童生徒数の推移

(単位：人)

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
不登校児童生徒数	小学生	28	31	36	50	68
	中学生	63	75	112	133	153
	計	91	106	148	183	221
上記のうち、教育支援センター通級者数	小学生	2	0	5	9	12
	中学生	10	11	24	31	35
	計	12	11	29	40	47

② いじめ・不登校未然防止等の取組

いじめは、「どの子どもにも、どの学校でも起こり得る」という意識を持ち、教育活動全体を通じ、全ての児童生徒に「いじめは決して許されない」という理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力を養うことが必要です。また、いじめについては、未然防止、早期発見、早期解消が求められ、学校、家庭が一体となって児童生徒を見守り、ささいな変化に気づくことが必要です。

不登校については、児童生徒にとって、学校や学級が安全・安心な居場所となるような取組が重要であり、児童生徒の自己有用感や自己肯定感を高め、「自分という存在が大事にされている」、「心の居場所となっている」などと実感できる取組が大切です。

◆教育委員会の主な取組

- 1 「音更町いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の防止等の取組
- 2 いじめ・不登校の未然防止や根絶を図るため、ハイパーQUアンケート調査や心理検査等を実施
- 3 学校、児童生徒及び保護者等に対する支援や相談体制の充実（スクールカウンセラー、学校教育相談員、教育推進員、心の教室相談員、青少年の悩み相談電話等）
- 4 携帯電話やスマートフォンなどのインターネットを通じて行われるいじめの早期発見を図るため、PTA等関係機関と連携し、家庭におけるルールづくりの啓発
- 5 教育支援センターによる不登校傾向の児童生徒に対する学校生活への復帰を含め、将来に向けた社会的自立を目指した支援の実施
- 6 「音更町いじめ問題等対策委員会」による状況の把握及びいじめ防止啓発等の推進
- 7 いじめ重大事態に対応するための関係条例等の整備
- 8 家庭・地域・関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携体制の充実
- 9 保護者、教職員及び関係機関を対象とした不登校学習会の開催

◆学校の主な取組

- 1 「いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期解消の取組
- 2 いじめ・不登校の未然防止や早期発見のため、定期的に実施するハイパーQUアンケートや心理検査の分析を活用した教育相談や学級経営
- 3 教育相談体制の充実と教育相談の実施
- 4 道徳の時間などにおいて、共感的な関係を深め、体験的な活動の充実
- 5 ネットトラブルから児童生徒を守るため、定期的なネットパトロールの実施と情報モラル教育の充実
- 6 家庭・地域・関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携
- 7 いじめ発見時の対処方法等の習得を目的とした研修会の開催
- 8 生徒会主催の「いじめ」撲滅宣言によるいじめの未然防止に向けた取組

◆家庭や地域との連携

- 1 自尊感情や他人を思いやる心の醸成
- 2 家庭だけで悩まず、学校や教育委員会などとの連携
- 3 社会教育の充実（地域で子どもを育てる気運）
- 4 携帯電話やスマートフォンなどの家庭におけるルールづくり

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価
(1) 文 教 対 策		
1 教 職 員 研 修	<p>教職員の資質の向上を図るため、次のとおり研修を行った。</p> <p>対象教職員 351人 1,817,627円</p>	<p>教職員の素養、知識、技術向上のために主として学校内及び町内・管内で行う研修と、道内研修参加者にその費用を交付した。また、学校内で創意工夫した研修を奨励する「校内研修実践指定校事業」を3校で実施し、その研修費用を交付した。令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、対面・リモートなど多様な形式での研修機会も増加しており、今後も教職員の資質向上のため、事業を継続していく必要がある。</p>
2 音 更 高 校 支 援 関 係	<p>音更高校の安定的な入学者数確保を支援するため、町と連携して実施する高校の魅力化推進の一環として、ICTを活用した教育活動の充実を図ることを目的に、生徒に無償貸与するタブレット端末を整備した。</p> <p>整備台数 120台 5,940,000円</p>	<p>中学校卒業生数が年々減少する中で、音更高校の魅力向上を支援し、入学希望者増につながる取組みとして実施しており、ICT環境の整備により、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用できる能力や資質の向上も見込まれることから、継続して取り組む必要がある。</p> <p>なお、令和5年度で全学年分の整備が完了したが、初年度整備分については令和8年度中にデバイスの自動更新期限を迎えることから今後の対策について検討を進める必要がある。</p>
3 部 活 動 の 地 域 移 行	<p>持続可能な部活動の運営体制を構築するため、次のとおり部活動の地域移行に取り組んだ。</p> <p>部活動改革協議会の設置、児童生徒・保護者・教職員等へのアンケート実施</p> <p>部活動地域連携推進員の配置 1人</p>	<p>少子化の影響などにより、従来の各中学校を運営主体とした部活動の存続が厳しい状況となっていることから、国・道の方針を踏まえ、部活動を学校から地域に移行する取組を進めている。令和5年度は専任の職員を配置し、町内の関係団体等で構成する部活動改革協議会において協議を進めるとともに、各種アンケート調査の実施により実態把握に努めた。</p>
4 教 職 員 健 康 対 策	<p>教職員の健康診断及びストレスチェックを次のとおり実施した。</p> <p>健康診断受診人数367人 ストレスチェック受検人数363人 5,753,263円</p> <p>〔胸部X線、胃（X線又は内視鏡）検査、血圧検査、尿検査、血液検査〕</p> <p>〔心電図検査、聴力検査、身体総合検査〕</p>	<p>教職員の健康診断を帯広徳洲会病院に委託して実施した。1日当たりの受入れ人数に制限があるため（1日5人程度）、長期間に渡って実施している。また、平成29年度から、メンタルヘルス不調の未然防止やストレスへの気づきを促すため、教職員のストレスチェックを実施している。長期休業期間中に多くの教職員が受診できるよう日程を調整し、継続して実施する必要がある。</p>
5 スクールのカウンセラーの配置	<p>年々増加する相談対応、緊急時における即時対応や予防的取組などの充実を図るため、令和5年度、スクールカウンセラー1人を教育委員会に配置し、様々な不安や悩みを抱える児童生徒の気持ちに寄り添い支援した。</p>	<p>心理に関して高度に専門な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを学校に派遣し、児童生徒へカウンセリングを通じて主に心理面のサポートのほか、教諭、保護者への助言等を行うなど、相談体制の強化が図られた。</p>
6 学 校 整 備 基 金 積 立 金	<p>学校施設の整備及び教育環境を整備するための備品等の購入財源に充てるため、学校整備基金に積み立てた。</p> <p>（積立額 1,501,630円、取り崩し額 10,435,000円、令和5年度末残高 164,191,283円）</p>	<p>施設整備や備品の購入など教育環境の充実を図るために、計画的な財源の確保は必須となっており、今後も継続して取り組む必要がある。令和5年度においては小中学校のエアコン整備の財源として一部を取り崩している。</p>

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																																
7 総合的な学習の時間 支援事業	<p>総合的な学習の時間として、創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進を図った。</p> <p>(単位 円)</p> <table border="1" data-bbox="488 331 999 464"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>学校数</th> <th>交付額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>11</td> <td>1,238,144</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5</td> <td>701,957</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16</td> <td>1,940,101</td> </tr> </tbody> </table>	区分	学校数	交付額	小学校	11	1,238,144	中学校	5	701,957	計	16	1,940,101	<p>総合的な学習の時間における教育活動において、創意工夫による特色ある学校づくりのため、小中学校にその経費を交付している。</p> <p>今後も、国際理解・情報・環境・福祉・健康教育等の総合的な教育活動の推進のために必要である。</p>																																				
区分	学校数	交付額																																																
小学校	11	1,238,144																																																
中学校	5	701,957																																																
計	16	1,940,101																																																
8 就 学 援 助	<p>経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、次のとおり就学援助費を支給した。</p> <p>(単位 人、円)</p> <table border="1" data-bbox="488 566 1084 1090"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>支給人数</th> <th>支給額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>学用品費</td><td>896</td><td>17,042,727</td></tr> <tr><td>体育実技用具費</td><td>308</td><td>3,634,527</td></tr> <tr><td>入学準備金</td><td>157</td><td>8,182,260</td></tr> <tr><td>入学準備金(早期支給)</td><td>156</td><td>3,426,660</td></tr> <tr><td>卒業アルバム代</td><td>217</td><td>2,584,240</td></tr> <tr><td>修学旅行費</td><td>220</td><td>8,649,678</td></tr> <tr><td>通学費</td><td>3</td><td>165,145</td></tr> <tr><td>P T A会費</td><td>703</td><td>2,089,582</td></tr> <tr><td>生徒会費</td><td>358</td><td>123,549</td></tr> <tr><td>クラブ活動費</td><td>245</td><td>4,027,312</td></tr> <tr><td>医療費</td><td>446</td><td>930,203</td></tr> <tr><td>給食費</td><td>890</td><td>41,846,007</td></tr> <tr><td>通信費</td><td>40</td><td>732,319</td></tr> <tr><td>管理指導表文書料</td><td>4</td><td>3,550</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>93,437,759</td></tr> </tbody> </table> <p>児童生徒数 3,509人 認定者数 912人 認定率 25.9%</p>	区分	支給人数	支給額	学用品費	896	17,042,727	体育実技用具費	308	3,634,527	入学準備金	157	8,182,260	入学準備金(早期支給)	156	3,426,660	卒業アルバム代	217	2,584,240	修学旅行費	220	8,649,678	通学費	3	165,145	P T A会費	703	2,089,582	生徒会費	358	123,549	クラブ活動費	245	4,027,312	医療費	446	930,203	給食費	890	41,846,007	通信費	40	732,319	管理指導表文書料	4	3,550	計		93,437,759	<p>経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、就学援助をすることにより、経費負担の軽減を図っている。</p> <p>就学援助の対象者として、要保護者に準ずる程度に困窮していると認められる準要保護者の認定に当たっては、町独自の施策として準要保護者の認定倍率を、平成28年度から生活保護基準の1.5倍未満に引き上げ、認定者数を拡大して援助を行っている。認定者数は、児童生徒数が減少したことに伴い、令和4年度より68人減少しており、認定率も0.9ポイント低下した。</p> <p>また、令和5年度の全体の支給額は、昨年度に比べ約783万円の減となっているが、これは、認定者数の減少により大半の区分で支給額が減少したためである。</p> <p>令和3年度から貸出しを実施している「家庭学習のためのモバイルWi-Fiルーター」に係る通信費について、実費分を支給した。</p> <p>今後も保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。</p>
区分	支給人数	支給額																																																
学用品費	896	17,042,727																																																
体育実技用具費	308	3,634,527																																																
入学準備金	157	8,182,260																																																
入学準備金(早期支給)	156	3,426,660																																																
卒業アルバム代	217	2,584,240																																																
修学旅行費	220	8,649,678																																																
通学費	3	165,145																																																
P T A会費	703	2,089,582																																																
生徒会費	358	123,549																																																
クラブ活動費	245	4,027,312																																																
医療費	446	930,203																																																
給食費	890	41,846,007																																																
通信費	40	732,319																																																
管理指導表文書料	4	3,550																																																
計		93,437,759																																																
9 奨 学 資 金	<p>高校在学者で家庭の経済的な理由により就学困難な者に対し、奨学資金を支給した。</p> <p>(単位 人、円)</p> <table border="1" data-bbox="488 1217 1256 1350"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>支給人数</th> <th>奨学資金</th> <th>支給総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年(公立高校)</td> <td>61</td> <td>月額 6,500</td> <td>4,719,000</td> </tr> <tr> <td>通年(私立高校)</td> <td>39</td> <td>月額 10,000</td> <td>4,440,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100</td> <td></td> <td>9,159,000</td> </tr> </tbody> </table>	区分	支給人数	奨学資金	支給総額	通年(公立高校)	61	月額 6,500	4,719,000	通年(私立高校)	39	月額 10,000	4,440,000	計	100		9,159,000	<p>高校在学者であって、経済的な理由により就学困難な高校生に奨学資金を支給している。</p> <p>平成27年度から支給対象者を増やし、一人当たり支給単価を公立高校が月当たり6,500円、私立高校が月当たり1万円を限度に実施している。</p> <p>前年度から減少傾向にあった新型コロナウイルス感染症に係る特別枠を、令和5年度から廃止した。</p> <p>本事業の周知については、申請受付開始前に各高校に本町奨学資金の案内文を送付するとともに、町内中学3年生の生徒・保護者向けにお知らせを配布している。</p> <p>今後も保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。</p>																																
区分	支給人数	奨学資金	支給総額																																															
通年(公立高校)	61	月額 6,500	4,719,000																																															
通年(私立高校)	39	月額 10,000	4,440,000																																															
計	100		9,159,000																																															

項 目	成 果			教育委員会の点検・評価
主 要 な 施 策				
10 教育施設の整備	教育施設の整備を次のとおり実施した。 (単位 円)			<p>(既存施設の改修及び保全) 施設の整備については、災害用の機能を備えた屋外トイレを整備したほか、児童生徒の熱中症対策のため、エアコン整備基本計画を策定するとともに、普通教室等の実施設計を行った。 また、老朽化が進む学校施設の整備として、東土狩小学校校舎の屋上防水改修及び外壁塗装、東土幌小学校屋内運動場の外壁塗装、駒場小学校水泳プールの水槽塗装を行った。また、東土狩小学校は浄化槽の更新も行った。 今後も、長寿命化計画に沿った維持管理を行い、施設に求められる安全安心はもとより、機能や性能の確保に努めていく。</p> <p>(老朽化した学校の大規模改修) 老朽化が深刻な柳町小学校の長寿命化を図るため、令和元年度から大規模改修を実施しており、令和5年度においては、職員室や廊下・階段室等の内部改修を行った。 また、令和5年度から緑南中学校の大規模改修を実施し、昇降口や美術教室等の内部改修及び玄関ポーチのスロープ新設等を行ったほか、駒場中学校の校舎トイレの内部改修及びバリアフリートイレ新設を行った。 今後も計画的な改修や設備等の更新を行い、建物の保全及び延命を図る。</p>
工 事 名 等	工事費等	内 容		
西中音更小学校屋内消火栓呼水槽更新工事	484,000	屋内消火栓呼水槽更新 1台		
東土幌小学校水泳プールろ過器更新工事	495,000	水泳プールろ過器更新 1台		
木野東小学校屋外手洗い場改修工事	616,000	屋外手洗い場水栓改修 10個		
木野東小学校防火設備更新工事	533,500	防火戸連動制御設備更新 3か所		
鈴蘭小学校給食調理室トイレ改修工事	1,254,000	トイレ洋式化、手洗器設置、内装改修		
音更小学校ボイラー制御盤タッチパネル更新工事	2,706,000	ボイラー制御盤タッチパネル更新		
音更中学校ガス設備更新工事	847,000	ガス設備更新		
駒場中学校構内通路改修工事	500,500	構内通路L型擁壁設置 8m		
共栄中学校多目的教室床改修工事	495,000	多目的教室床改修		
共栄中学校テニスコート不陸改修工事	495,000	テニスコート不陸改修		
音更小学校遊具再整備工事	836,000	ブランコ安全柵再整備		
東土狩小学校校舎屋上防水及び外壁塗装改修工事	46,090,000	校舎屋上防水改修、外壁塗装		
東土幌小学校屋内運動場外壁塗装改修工事	15,620,000	屋内運動場外壁塗装		
駒場小学校水泳プール水槽塗装工事	14,850,000	水泳プール水槽塗装		
木野東小学校屋外トイレ改築建築主体工事	21,098,000	屋外トイレ改築		
木野東小学校屋外トイレ改築機械設備工事	19,965,000	屋外トイレ改築に伴う機械設備工事、電気設備工事		
柳町小学校屋外トイレ改築建築主体工事	19,030,000	屋外トイレ改築		
柳町小学校屋外トイレ改築機械設備工事	9,768,000	屋外トイレ改築に伴う機械設備工事、電気設備工事		
柳町小学校校舎内部改修建築主体工事	85,360,000	校舎職員室ほか内部改修		
柳町小学校校舎内部改修電気設備工事	21,285,000	校舎内部改修に伴う電気設備工事		

項 目	成 果		教育委員会の点検・評価	
	主 要 な 施 策			
10 教育施設の整備	柳町小学校校舎内部改修機械設備工事	29,645,000	校舎内部改修に伴う機械設備工事	
	柳町小学校校舎内部改修工事監理業務	3,850,000	工事監理、指導監督	
	東土狩小学校浄化槽更新工事	33,308,000	合併処理浄化槽更新 1基	
	駒場中学校校舎トイレ改修建築主体工事	43,989,000	校舎生徒用・職員用トイレ内部改修、バリアフリートイレ新設	
	駒場中学校校舎トイレ改修電気設備工事	6,853,000	校舎トイレ改修に伴う電気設備工事	
	駒場中学校校舎トイレ改修機械設備工事	43,769,000	校舎トイレ改修に伴う機械設備工事	
	駒場中学校校舎トイレ改修工事監理業務	2,153,800	工事監理、指導監督	
	緑南中学校校舎改修建築主体工事	148,500,000	校舎昇降口・美術教室ほか内部改修、玄関ポーチスロープ新設ほか	
	緑南中学校校舎改修電気設備工事	11,655,600	校舎改修に伴う電気設備工事	
	緑南中学校校舎改修機械設備工事	47,960,000	校舎改修に伴う機械設備工事	
	緑南中学校校舎改修工事監理業務	5,940,000	工事監理、指導監督	
	小中学校屋内消火栓ホース耐圧試験委託業務	1,045,000	屋内消火栓ホース耐圧試験 258本	
	小中学校等エアコン整備	55,922,766	エアコン整備基本計画策定、普通教室等エアコン整備実施設計ほか	
	計	696,919,166		
11 教員住宅の整備	教員住宅の整備を次のとおり実施した。		<p>教職員の福利厚生の一環として整備している住宅の住環境改善のため、昨年度に引き続き温水ボイラーの更新のほか、屋根塗装等を行った。</p> <p>今後も入居者の要望を把握し、入居状況を踏まえながら質的整備を進める。</p>	
	(単位 円)			
	工事名等	工事費等		内 容
	教員住宅温水ボイラー更新工事	1,100,000		温水ボイラー更新 3戸
	教員住宅床改修工事	478,500		床改修 1戸
	教員住宅屋根塗装工事	1,023,000		屋根塗装 1戸
	教員住宅屋根改修工事	1,200,000		屋根改修 1戸
計	3,801,500			

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価
12 開かれた学校づくり	<p>信頼される開かれた学校づくりに向けて次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール） 学校と保護者や地域住民が子どもに関する課題・目的を共有し、「地域とともにある学校づくり」を推進するため、学校運営及び運営への必要な支援について協議する学校運営協議会の委員を任命した。 (小学校11校93人、中学校5校38人) ・小規模特認校 保護者・児童が希望する場合、一定の条件の下で、自然環境に恵まれた小規模校へ通学区域外からの入学を認める小規模特認校制度を下土幌小学校で導入した。 	<p>子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題が複雑化・多様化しており、学校運営に地域の人々が参画し、地域人材や資源を生かしながら協働して活動していく、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置。学校・地域・家庭のより一層の連携協力を図っていくため、学校評価や地域学校協働活動について協議（熟議）を行っている。令和4年度にすべての小中学校がコミュニティ・スクールに移行し、学校運営協議会を設置している。</p> <p>また、平成19年度から小規模特認校制度を導入していた昭和小学校が令和元年度で閉校したため、令和2年度からは、下土幌小学校が小規模特認校制度を導入している。令和2年度と令和5年度に各1人が入学している。</p>
13 いじめ等の対策	<p>いじめ問題等対策委員会を設置して、全小中学校でアンケート調査を実施し、調査結果をまとめた「いじめに関する実態調査」を教職員に配付した。また、平成25年度から学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態を測定することを可能とするハイパーQ Uアンケートを実施し、児童生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用することで、いじめ等の早期発見にも効果を上げている。</p>	<p>アンケート調査を基に、ネット上のいじめ等も含め、いじめの実態把握に取り組んでいる。</p> <p>また、令和5年5月の「音更町いじめ防止基本方針」の改定を踏まえ、各学校において「いじめ防止基本方針」を改定するなど校内体制の充実を図り、教育支援センター指導員や心の教室相談員等と連携しながら、いじめ・不登校に対して、早期発見・早期解消に取り組んでいる。</p>
14 児童生徒の安全確保	<p>児童生徒の安全確保対策として次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入学児童への防犯ブザーの配付 ・全小中学校にA E D（自動体外式除細動器）を配置 	<p>登下校時の通学路の安全対策については、各学校ごとに地域ぐるみで子どもを見守る取組が進められている。</p> <p>教職員対象の一般救急講習では、A E D操作方法やエビペンの研修を行った。各種災害時の対応マニュアルにより、教育委員会、学校及び保護者の対応について共有している。</p> <p>今後も、児童生徒の安全確保の観点から継続していきたい。</p>
15 情 報 教 育	<p>I C T機器を効果的に活用し、児童生徒の学習の基盤となる「情報活用能力」の向上を図った。また、寄附を受けたSTEAM教材を活用し、小中学校でプログラミング教育に取り組んだ。</p> <p>文部科学省が実施する「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に町内の全小中学校が参加した。また、指導者用デジタル教科書の年間ライセンスを全小中学校分購入し、授業での活用を図った。</p> <p>小学校に学習支援アプリを導入し、1人1台タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学びの更なる推進を図った。</p> <p>また、文部科学省CBT（Computer Based Testing）システム「MEXCBT」の活用にあたり、「MEXCBT」への入り口となる学習eポータルを選定を行った。</p> <p>通信環境が整っていない家庭向けにモバイルWi-Fiルーターの貸出しを実施した。</p>	<p>学習指導要領において「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられている「情報活用能力」の育成のため、各学校において1人1台のタブレット端末を活用している。</p> <p>音更町教育研究所が中心となって学習支援アプリの効果的な活用に係る研修会及び授業公開を行い、町全体への成果の普及に取り組んでいる。</p> <p>子どもたちがデジタル社会のよき担い手となるよう、学習用タブレット端末のほかデジタルツールの適切な使用などに係る児童生徒向け・保護者向けのリーフレットを作成・配布し、デジタル・シティズンシップについての理解促進に取り組んでいる。</p>

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価
16 国際理解教育	<p>外国語指導助手を配置し、中学生に対する英語の発音指導のほか、小学校における英会話の補助及び地域における国際交流活動等の活動を行っている。</p> <p>外国語指導助手 2人 小学校が実施する外国語活動を補助するため、外部サポート講師を全小学校に派遣した。</p>	<p>外国語指導助手については、小中学校をはじめ、社会人の英会話教室や国際交流の集いなど幅広く活用されている。令和2年度に小学校英語教科が開始され、取組の強化を図るため、外国語指導助手を令和元年8月に1人増員している。また、外部サポート講師の派遣については、各小学校の指導目標に応じた外国語活動を補助するため、今後も継続していきたい。</p>
17 学校給食関係	<p>(1) 学校給食費保護者負担軽減対策事業補助金 令和5年度の給食費改定に伴う負担の軽減を図るため、給食費の値上げ相当額を補助した。 対象者数 3,509人 20,820,400円</p> <p>(2) 学校給食費の公会計化 令和6年度からの学校給食費の公会計化に向けて準備作業を進めた。 給食費管理システム導入 2,773,760円</p>	<p>令和5年4月に9年ぶりに学校給食費が改定されたが、当該値上げ相当額を補助することにより、保護者の負担を改定前の水準に据え置くこととした。また、学校給食費の徴収事務等に係る教職員の負担軽減を図るため、令和6年度から学校給食費を公会計化することとし、関係規定等の整備、管理システムの導入、納入者情報の登録など準備作業を実施した。</p>
18 食 育	<p>生涯を通じて心身の健康を支える食育を推進するため、食事の重要性や食への感謝の気持ちなどを育みながら、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の定着を目指し、学校配置の4人の栄養教諭とともに、自校給食の特色を生かした食育指導の強化を図っている。</p> <p>また、地場産品への知識や理解を深めてもらうことを目的に、町内産の旬の食材を献立に組み入れる「おとぷけ給食」を町と連携して実施し、安全・安心でおいしい学校給食を提供しながら、地産地消の推進と食育の充実を図っている。</p>	<p>本町の学校給食は、地場産品の割合が高いが、今後も食育の充実を図るとともに、食品の安全・安心に継続して取り組む必要がある。また、地産地消と食育推進のため、町と連携して「おとぷけ給食」を継続して実施するなど、教育委員会に配置する管理栄養士と4人の栄養教諭が連携して、学校における食育の充実を図っている。</p>
19 特別支援教育	<p>肢体不自由学級及び病弱学級等に在籍する児童生徒のうち、生活介助が必要であるものに対し、平成23年度から訪問介護事業所に業務委託し生活介助員を派遣した。</p> <p>また、特に医療的ケアが必要であるものに対しては、令和元年度から訪問看護事業所に業務委託し看護師を派遣した。</p> <p>通常学級には引き続き学習支援員を配置した。</p> <p>複式学校に複式学習支援員を配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介助員 7校 ・看護師 1校 ・特別支援教育学習支援員 12校 35人 ・複式教育学習支援員 4校 2人(巡回) 	<p>特別支援学級に在籍する肢体不自由等の障がいがある児童生徒の学校生活を支援するため、今後も生活介助員の配置が必要である。</p> <p>平成20年度から導入した特別支援教育学習支援員は、通常学級における発達障害等により特別な支援を要する児童生徒に対して、学習活動や学校生活上において支援を行っている。近年、支援を要する児童生徒が増加傾向にあることから、令和4年度に3人増員している。今後も特別支援教育の充実を図る必要があることから、配置は必要である。</p> <p>平成25年度から配置している複式学習支援員は、複式学級の児童の指導補助を行うことにより、複式学年別指導の充実を図っていることから、今後も配置は必要である。</p> <p>なお、町で使用する「個別的教育支援計画」の標準様式を定め、障がいのある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握することや長期的な視点で一貫した的確な教育的支援を行うことなど、特別支援教育の更なる充実を図っている。</p>

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																												
(2) 社会教育の振興 1 青少年教育事業	<p>団体活動を奨励し、体験学習の充実と指導者の養成を図るため、青少年の健全育成に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="477 443 1256 911"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども姉妹町視察研修（岩手県軽米町）</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>夏期・冬期リーダー研修会</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>秋山ハイキング</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>中学生リーダー研修会</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>こども体験隊</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>熟年先生講座（夏期・冬期）</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>国際交流のつどい</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>北部3町ジュニアリーダーズキャンプ</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>はたちの集い</td> <td>405</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数	こども姉妹町視察研修（岩手県軽米町）	19	夏期・冬期リーダー研修会	50	秋山ハイキング	31	中学生リーダー研修会	11	こども体験隊	29	熟年先生講座（夏期・冬期）	24	国際交流のつどい	8	北部3町ジュニアリーダーズキャンプ	9	はたちの集い	405	<p>こども姉妹町視察研修は、姉妹町締結当初から継続している小学生の相互派遣交流事業であり、視察研修は令和5年度から相互派遣を再開し、交流の継続と両町の相互理解を図る機会を提供できた。</p> <p>夏期・冬期リーダー研修会については小学校高学年を対象として、秋山ハイキングについては小学校低学年を対象として継続実施しているほか、平成30年度からは中学生を対象としたリーダー研修会を開設し、小学生リーダー研修会等における運営ボランティア育成につながることを期待されている。</p> <p>こども体験隊、熟年先生講座、国際交流のつどいは、さまざまな体験活動を通して豊かな情操や心身の健全育成、国際理解の促進を図るとともに、子どもの居場所づくりを提供するものであり、継続実施が必要である。熟年先生講座については、長期休業中に各学校で学習支援活動が行われていることもあり、参加人数は減少傾向にあるが、団体解散後も講師を担っている退職校長教頭との世代間交流の側面もあることから、開催方法や内容を検討しながら継続が必要である。</p> <p>北部3町ジュニアリーダーズキャンプは、士幌町、上士幌町と連携して実施している社会教育共同事業の一つで、他町の子どもたちとの交流や体験活動を通し、コミュニケーション能力を養い、思いやりの心を育む場となっていることから、今後も継続した取組としていくことを確認している。</p> <p>はたちの集いについては、成年年齢が18歳に引き下げられたことにより名称を成人式から変更して、町と教育委員会の共催として開催し、あわせてオンラインによるライブ配信を継続して行っている。人生の大きな節目の年齢である20歳を祝い、主体的な参画と成人としての自覚を改めて促す機会として、今後も継続が必要である。</p>																								
事業名	参加人数																																													
こども姉妹町視察研修（岩手県軽米町）	19																																													
夏期・冬期リーダー研修会	50																																													
秋山ハイキング	31																																													
中学生リーダー研修会	11																																													
こども体験隊	29																																													
熟年先生講座（夏期・冬期）	24																																													
国際交流のつどい	8																																													
北部3町ジュニアリーダーズキャンプ	9																																													
はたちの集い	405																																													
2 青少年対策	<p>放課後子ども教室を開設し、青少年の健全育成を図るため、巡視指導活動や不審者情報の提供、通報・悩み相談等を行い、関係機関と連携して非行防止に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="486 1150 1279 1511"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対 策 内 容</th> <th colspan="2">実 施 回 数 等</th> </tr> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放課後子ども教室の実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>登録人数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>音更小</td> <td>62人</td> <td>11回 延 510人</td> </tr> <tr> <td>下音更小</td> <td>79人</td> <td>8回 延 521人</td> </tr> <tr> <td>駒場小</td> <td>9人</td> <td>10回 延 74人</td> </tr> <tr> <td>柳町小</td> <td>86人</td> <td>8回 延 511人</td> </tr> <tr> <td>緑陽台小</td> <td>52人</td> <td>12回 延 503人</td> </tr> <tr> <td>鈴蘭小</td> <td>83人</td> <td>9回 延 582人</td> </tr> <tr> <td>木野東小</td> <td>52人</td> <td>12回 延 460人</td> </tr> <tr> <td>下士幌小</td> <td>18人</td> <td>1回 延 12人</td> </tr> <tr> <td>西中音更小</td> <td>15人</td> <td>5回 延 64人</td> </tr> <tr> <td>東士狩小</td> <td>23人</td> <td>1回 延 22人</td> </tr> <tr> <td>東士幌小</td> <td>7人</td> <td>2回 延 11人</td> </tr> </tbody> </table>	対 策 内 容	実 施 回 数 等		開催回数	参加人数	放課後子ども教室の実施			登録人数			音更小	62人	11回 延 510人	下音更小	79人	8回 延 521人	駒場小	9人	10回 延 74人	柳町小	86人	8回 延 511人	緑陽台小	52人	12回 延 503人	鈴蘭小	83人	9回 延 582人	木野東小	52人	12回 延 460人	下士幌小	18人	1回 延 12人	西中音更小	15人	5回 延 64人	東士狩小	23人	1回 延 22人	東士幌小	7人	2回 延 11人	<p>放課後子ども教室は、放課後に小学校の体育館などを活用し、勉強やスポーツ、文化活動など、児童と地域住民が交流しながら、児童の自主性や社会性、創造性などを養うための安全、安心な「子どもの居場所づくり」を目的とし、平成28年度に小学校4校において開設した。</p> <p>その後、新学習指導要領の全面実施による影響を見極めるため、実施校の拡大を見送ってきたが、外部講師による運営支援、地域ボランティアの増員確保により、令和2年度から、緑陽台、鈴蘭の小学校2校を、3年度からは木野東小学校を加えた市街地7校で実施した。令和5年度は、農村部4校を10月から試行的に実施し、町内全11小学校で開設した。</p>
対 策 内 容	実 施 回 数 等																																													
	開催回数	参加人数																																												
放課後子ども教室の実施																																														
登録人数																																														
音更小	62人	11回 延 510人																																												
下音更小	79人	8回 延 521人																																												
駒場小	9人	10回 延 74人																																												
柳町小	86人	8回 延 511人																																												
緑陽台小	52人	12回 延 503人																																												
鈴蘭小	83人	9回 延 582人																																												
木野東小	52人	12回 延 460人																																												
下士幌小	18人	1回 延 12人																																												
西中音更小	15人	5回 延 64人																																												
東士狩小	23人	1回 延 22人																																												
東士幌小	7人	2回 延 11人																																												

項 目 主 要 な 施 策	成 果		教育委員会の点検・評価																		
2 青 少 年 対 策	<table border="1"> <tr><td>巡視指導活動</td><td>巡視指導 延 579回 延1,243人</td></tr> <tr><td>有害環境の浄化活動</td><td>随時実施</td></tr> <tr><td>通報活動・青少年悩み相談</td><td>通報 16件 相談 3回</td></tr> <tr><td>広報活動</td><td>広報紙発行 12回 広報車運行 随時</td></tr> <tr><td>研修活動</td><td>会議・研修会 8回</td></tr> <tr><td>関係機関・団体との連携</td><td>派遣 なし 学校訪問 年2回</td></tr> </table>	巡視指導活動	巡視指導 延 579回 延1,243人	有害環境の浄化活動	随時実施	通報活動・青少年悩み相談	通報 16件 相談 3回	広報活動	広報紙発行 12回 広報車運行 随時	研修活動	会議・研修会 8回	関係機関・団体との連携	派遣 なし 学校訪問 年2回		<p>通報等について、子どもの安全を守る活動として、学校と教育委員会で曜日時間に関係なく不審者情報を正確かつ迅速に周知するため連絡体制を整備し、関係機関等と連携している。令和5年度における通報件数は、前年度に比べ半減しているが、引き続き巡視指導活動等を強化したところである。巡視指導は、生涯学習課青少年係を中心に5中学校区の青少年対策地区指導員と連携しながら活動しており、今後も地域との連携を更に密接に進め、地域ぐるみで子どもの安全確保を図る。</p> <p>青少年だより「かけ橋」は広報活動の柱として、非行防止やネットトラブルなど身近なことに視点を当てて多くの方に読んでもらえる紙面づくりに努め、今後も継続して家庭・学校を通して情報提供を行っていく。</p>						
巡視指導活動	巡視指導 延 579回 延1,243人																				
有害環境の浄化活動	随時実施																				
通報活動・青少年悩み相談	通報 16件 相談 3回																				
広報活動	広報紙発行 12回 広報車運行 随時																				
研修活動	会議・研修会 8回																				
関係機関・団体との連携	派遣 なし 学校訪問 年2回																				
3 成 人 教 育 事 業	<p>学習の場と機会を提供し、計画的・継続的学習を進めるとともに、団体の自主的活動の助長に努めた。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事 業 名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>家庭教育学級 (9学級/16学級)</td><td>1,043</td></tr> <tr><td>幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座)</td><td>17</td></tr> <tr><td>幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座) 公開講座</td><td>13</td></tr> <tr><td>女性ライフスクール</td><td>45</td></tr> <tr><td>シニア学級 (3学級)</td><td>213</td></tr> <tr><td>シニア大学 (すずらんカレッジ：4学年)</td><td>19</td></tr> <tr><td>シニア大学院 (すずらん大学院：2学年)</td><td>10</td></tr> <tr><td>おとふけ「教育を考える日」記念フェスタ</td><td>375</td></tr> </tbody> </table>		事 業 名	参加人数	家庭教育学級 (9学級/16学級)	1,043	幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座)	17	幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座) 公開講座	13	女性ライフスクール	45	シニア学級 (3学級)	213	シニア大学 (すずらんカレッジ：4学年)	19	シニア大学院 (すずらん大学院：2学年)	10	おとふけ「教育を考える日」記念フェスタ	375	<p>各家庭教育学級は、幼児・小中学生の保護者の子育てで支援と資質向上を図るため、今後も継続が必要である。幼児家庭教育学級は、子育てにおける知識・能力を身に付ける学習の場を提供するとともに、受講生が安心して学習活動に取り組みやすいボランティアによる託児、土曜日の開催や公開講座の実施など、参加しやすい環境整備を行い実施した。</p> <p>女性ライフスクールは、自ら学ぶ、ともに学ぶことの視点から学習の大切さを通して生活課題の解決や社会人としての資質向上を図るとともに幅広く学習機会を提供するために、年齢制限を撤廃したところ受講生の増加につながっている。</p> <p>高齢者関係事業は、人生100年時代を迎える中、自己の能力を高め、生きがいをもって充実した人生を送るために、誰もがいつでもどこでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる環境づくりを進め、高齢者の生きがいの創出と豊かな地域づくりへの参加促進を図るため、今後も継続が必要な事業である。令和5年度から名称を高齢者からシニア学級・大学・大学院に改称し実施したほか、シニア学級については、4年度末で学級生の減少により上然別学級を閉鎖し、5年度から3学級で実施している。</p> <p>おとふけ「教育を考える日」記念フェスタは、「教育を考える日」の理念や趣旨、具体的な取組等を紹介することで、町民の教育への関心を高め、次代を担う子どもたちへの教育に関する取り組みを地域ぐるみで推進し、本町教育の充実と発展を図るために、実行委員会に交付金を交付して実施している。令和5年度は、教育活動報告のほか、小中高作品展示などを通して関心を高める機会を提供することができたと考えており、今後も同様の内容で継続していく。</p>
事 業 名	参加人数																				
家庭教育学級 (9学級/16学級)	1,043																				
幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座)	17																				
幼児家庭教育学級 (ママとパパの講座) 公開講座	13																				
女性ライフスクール	45																				
シニア学級 (3学級)	213																				
シニア大学 (すずらんカレッジ：4学年)	19																				
シニア大学院 (すずらん大学院：2学年)	10																				
おとふけ「教育を考える日」記念フェスタ	375																				

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																										
4 生涯学習事業	<p>生涯学習への認識を深めるとともに、町内高等教育機関等との連携による学習機会の提供を図った。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" data-bbox="488 354 1339 801"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>1,957</td> </tr> <tr> <td>〇〇J Cオープンカレッジ(14講座、3事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)</td> <td>699</td> </tr> <tr> <td>〇〇J Cオープンカレッジ小学生講座(2講座)</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>高校開放講座(8講座) (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>生涯学習まちづくりセミナー</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> <p>社会の変化に対応し心豊かに生きていくために、自己学習や世代間・地域間交流の促進を図った。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" data-bbox="488 954 1339 1439"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習講座(7講座)</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>史跡めぐりツアー(3回)</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>郷土資料館茶話会(4回)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>郷土資料館講座(4回)</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>音更ふるさと資料館リニューアル記念イベント</td> <td>1,600</td> </tr> <tr> <td>みんなで歌おう思い出の校歌アーカイブ事業(対象33校)</td> <td>収録済 16校</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数	生涯学習フェスティバル	1,957	〇〇J Cオープンカレッジ(14講座、3事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)	699	〇〇J Cオープンカレッジ小学生講座(2講座)	15	高校開放講座(8講座) (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)	94	生涯学習まちづくりセミナー	28	事業名	参加人数	生涯学習講座(7講座)	141	史跡めぐりツアー(3回)	42	郷土資料館茶話会(4回)	10	郷土資料館講座(4回)	65	音更ふるさと資料館リニューアル記念イベント	1,600	みんなで歌おう思い出の校歌アーカイブ事業(対象33校)	収録済 16校	<p>生涯学習フェスティバルは、生涯学習を实践する各種団体による実行委員会形式で実施しており、令和5年度は4年ぶりに2日日程で開催した。実践者が一堂に会し交流を深めるとともに、貴重な学習成果の発表の場でもあることから、開催時期や内容を検討しながら継続実施する。</p> <p>〇〇J Cオープンカレッジは帯広大谷短期大学と共同で、対面式とオンラインを活用して実施し、高校開放講座は、音更高校と共同で実施する学習講座であり、それぞれの教育機関等の教育力を活用した事業である。これは、地域の教育資源を積極的に活用する極めて有効な事業であり、今後も町民のニーズに対応した、継続性のある魅力的な講座(学習機会)を提供することが必要である。</p> <p>生涯学習まちづくりセミナーは生涯学習によるまち(地域)づくり、人づくりをめざした事業(学習講座)であり、生涯学習を通じた町民参加と協働によるまちづくりを推進していくために有効な事業であり、今後も継続していくことが必要である。</p> <p>生涯学習講座は、継続実施している書道講座、木工教室のほか、食育・食文化プロデューサーによる、小学生クッキング講座や、郷土の食文化を学ぶ料理講座を実施した。各種講座は生きがいつくりや文化的生活を支援するものであることから、今後も町民ニーズや社会の変化に対応した講座を実施していく。</p> <p>史跡めぐりツアーは、町の歴史・文化に触れる貴重な学習機会となっていることから、学芸員が中心となり音更郷土史研究会と連携して継続実施していく。</p> <p>なお、音更ふるさと資料館リニューアル記念イベントについては、多数の来場者があり、資料館の魅力発信と施設利用促進の機会となった。</p> <p>今後も定期的な展示公開に加え、思い出の校歌アーカイブ事業や昔の写真収集保存事業を実施し、施設の利用促進を図るとともに、郷土の歴史文化を学ぶ機会を提供し、子どもから大人まで幅広く郷土愛を育む学習活動を推進する。</p>
事業名	参加人数																											
生涯学習フェスティバル	1,957																											
〇〇J Cオープンカレッジ(14講座、3事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)	699																											
〇〇J Cオープンカレッジ小学生講座(2講座)	15																											
高校開放講座(8講座) (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)	94																											
生涯学習まちづくりセミナー	28																											
事業名	参加人数																											
生涯学習講座(7講座)	141																											
史跡めぐりツアー(3回)	42																											
郷土資料館茶話会(4回)	10																											
郷土資料館講座(4回)	65																											
音更ふるさと資料館リニューアル記念イベント	1,600																											
みんなで歌おう思い出の校歌アーカイブ事業(対象33校)	収録済 16校																											

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																																	
主 要 な 施 策																																			
5 地域学校協働活動	<p>学校を核とした地域づくりを目指し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動」は、一年間の試行期間を経て本格実施となった。</p> <p style="text-align: right;">(単位 件)</p> <table border="1" data-bbox="488 347 1361 999"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分 野</th> <th colspan="3">実施数</th> <th rowspan="2">主 な 内 容</th> </tr> <tr> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふるさと教育的分野</td> <td>366</td> <td>54</td> <td>420</td> <td>自然科学 31、防災・危機対策 41、食育 61、産業経済 21、医療福祉 23、環境生活 34、伝統文化・芸術 128、国際理解 12、進路学習・職場見学 29、その他 40</td> </tr> <tr> <td>政治教育的分野</td> <td>14</td> <td>5</td> <td>19</td> <td>主権者教育(模擬選挙) 14、議会傍聴2、北方領土学習1、人権擁護教室2</td> </tr> <tr> <td>経済教育的分野</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>24</td> <td>消費者教育教室14、租税教室10</td> </tr> <tr> <td>キャリア教育</td> <td></td> <td>6</td> <td>6</td> <td>協力登録数 77団体 職場体験学習 4校62団体 職業学習会 2校20団体</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>396</td> <td>73</td> <td>469</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>令和5年度地域学校協働活動外部講師登録者数 98団体</p>	分 野	実施数			主 な 内 容	小学校	中学校	合 計	ふるさと教育的分野	366	54	420	自然科学 31、防災・危機対策 41、食育 61、産業経済 21、医療福祉 23、環境生活 34、伝統文化・芸術 128、国際理解 12、進路学習・職場見学 29、その他 40	政治教育的分野	14	5	19	主権者教育(模擬選挙) 14、議会傍聴2、北方領土学習1、人権擁護教室2	経済教育的分野	16	8	24	消費者教育教室14、租税教室10	キャリア教育		6	6	協力登録数 77団体 職場体験学習 4校62団体 職業学習会 2校20団体	合 計	396	73	469		<p>令和5年度から本格実施するに当たり、企業、団体等に赴いて協力を募り、それを元に「地域学校協働活動外部講師リスト」を作成して、各小中学校に配布した。従来、各学校で授業の企画や講師探しなどを行っていたが、講師リストの活用により、学校側の負担を大きく軽減しながら、専門性のある授業を行うことが可能となった。また、各学校での特色ある取組を学校間で共有することで、活動の広がりも見られるようになっている。</p> <p>主権者教育(模擬選挙)や消費者教育教室などの社会参画分野は、成人年齢が18歳に引き下げられたことによる、様々な事象を想定しながら、町内全小中学校で行っている。</p> <p>町内の中学校では毎年秋に「職場体験学習」を行っているが、受入れ企業、団体の照会や斡旋を行い、最後の人数調整のみ各中学校で行っている。これにより学校側の負担軽減だけでなく、生徒の選択肢の幅も広がり学習の一助となっている。</p>
分 野	実施数			主 な 内 容																															
	小学校	中学校	合 計																																
ふるさと教育的分野	366	54	420	自然科学 31、防災・危機対策 41、食育 61、産業経済 21、医療福祉 23、環境生活 34、伝統文化・芸術 128、国際理解 12、進路学習・職場見学 29、その他 40																															
政治教育的分野	14	5	19	主権者教育(模擬選挙) 14、議会傍聴2、北方領土学習1、人権擁護教室2																															
経済教育的分野	16	8	24	消費者教育教室14、租税教室10																															
キャリア教育		6	6	協力登録数 77団体 職場体験学習 4校62団体 職業学習会 2校20団体																															
合 計	396	73	469																																
6 社会教育施設の整備	<p>社会教育施設の整備を次のとおり実施した。</p> <table border="0" data-bbox="488 1193 1267 1465"> <tr> <td>(1) 生涯学習センター改修事業費 北側外壁サイン等作成業務、中庭広場改修工事、 屋上防水改修工事</td> <td style="text-align: right;">18,942,000円</td> </tr> <tr> <td>(2) 集団研修施設改修事業 屋内運動場棟外壁塗装工事</td> <td style="text-align: right;">16,478,000円</td> </tr> <tr> <td>(3) 伊福部昭を讃える音楽記念碑の整備 伊福部昭音楽資料室の解説パネル増設</td> <td style="text-align: right;">3,278,000円 199,749円</td> </tr> </table>	(1) 生涯学習センター改修事業費 北側外壁サイン等作成業務、中庭広場改修工事、 屋上防水改修工事	18,942,000円	(2) 集団研修施設改修事業 屋内運動場棟外壁塗装工事	16,478,000円	(3) 伊福部昭を讃える音楽記念碑の整備 伊福部昭音楽資料室の解説パネル増設	3,278,000円 199,749円	<p>「音更ふるさと資料館」のリニューアルオープンに伴い、外観の更新を行ったほか、老朽化が進む社会教育関連施設の整備として、集団研修施設の屋内運動場棟外壁塗装工事等を行った。</p> <p>今後も長寿命化計画に基づいて、利用者が安全安心に利用できるよう必要な改修等を行いながら施設の保全を推進する。</p> <p>また、音更ゆかりの日本を代表する偉大な作曲家である伊福部昭氏の功績と音更との関わりを後世に伝えるため、施設の整備を実施した。今後も施設の維持管理及び充実を図り、町内外にその魅力が広く周知されるよう情報発信に努める。</p>																											
(1) 生涯学習センター改修事業費 北側外壁サイン等作成業務、中庭広場改修工事、 屋上防水改修工事	18,942,000円																																		
(2) 集団研修施設改修事業 屋内運動場棟外壁塗装工事	16,478,000円																																		
(3) 伊福部昭を讃える音楽記念碑の整備 伊福部昭音楽資料室の解説パネル増設	3,278,000円 199,749円																																		

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価														
7 文化・芸術事業	<p>芸術鑑賞や発表の機会を提供するなど豊かな心を養うとともに、各文化団体や関係機関と協力、連携し、芸術文化の奨励と向上に努めた。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" data-bbox="488 354 1245 986"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化大会参加補助金 (全道団体2件、全国個人2件、全国団体1件)</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>中学生芸術鑑賞会</td> <td>903</td> </tr> <tr> <td>小学生芸術鑑賞会</td> <td>856</td> </tr> <tr> <td>文化祭</td> <td>4,710</td> </tr> <tr> <td>芸術鑑賞事業(事業協会等との連携事業)13事業</td> <td>5,744</td> </tr> <tr> <td>伊福部昭音楽セミナー</td> <td>延べ 864</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数	芸術文化大会参加補助金 (全道団体2件、全国個人2件、全国団体1件)	76	中学生芸術鑑賞会	903	小学生芸術鑑賞会	856	文化祭	4,710	芸術鑑賞事業(事業協会等との連携事業)13事業	5,744	伊福部昭音楽セミナー	延べ 864	<p>(芸術文化大会参加補助金) 芸術文化大会参加補助は、芸術文化部門において優秀な成績を取った者に対して補助しているもので、芸術文化の奨励と向上を図るため、今後も継続が必要である。</p> <p>(中学生芸術鑑賞会・小学生芸術鑑賞会) 中学生は例年どおり1,2年生を対象に実施した。小学生は令和5年度から対象学年を見直し、予定どおり5,6年生を対象に実施した。今後も情操教育の一環として、引き続き鑑賞機会を提供していく。</p> <p>(文化祭) 芸能発表や作品展示など、町民の日頃の活動成果を発表する場として、また、人々の交流の場を広げ、地域に根ざした芸術文化活動と人づくり・まちづくりを推進するため、今後も継続する必要がある。</p> <p>(芸術鑑賞事業) 文化事業協会と連携し、幼児・児童向けのファミリーミュージカルのほか、音楽劇やコンサートなど、各ジャンルで質の高い鑑賞事業を13事業実施した。町民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するため、引き続き事業の充実を図る。</p> <p>(伊福部昭音楽セミナー) 伊福部昭氏の音楽を通じて全国から演奏家が集い、国内外で活躍する講師陣の実技指導と参加者全員によるコンサートなど、実行委員会と連携して開催した。伊福部音楽を後世に伝え、音楽によるまちづくりを広く発信するとともに、地域に根ざした芸術文化活動の振興のため、事業の充実を図りながら継続して取り組む。</p>
事業名	参加人数															
芸術文化大会参加補助金 (全道団体2件、全国個人2件、全国団体1件)	76															
中学生芸術鑑賞会	903															
小学生芸術鑑賞会	856															
文化祭	4,710															
芸術鑑賞事業(事業協会等との連携事業)13事業	5,744															
伊福部昭音楽セミナー	延べ 864															
8 地域おこし協力隊の配置	<p>ヴァイオリンの演奏活動を通じて、町民の音楽への関心と理解を深めた。</p> <p>地域おこし協力隊(芸術文化活動コーディネーター)報酬1名 2,086,872円 地域おこし協力隊活動費 1,239,890円</p>	<p>(任用期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日) 各種音楽団体への実技指導による人材育成や小中学校及び保育施設等における訪問演奏のほか、屋外ステージコンサート、初心者ヴァイオリン体験講座など、新たな事業に取り組んだ。引き続き、町民が主体的に芸術文化活動に関わることができる環境づくりに努める。</p>														

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																																								
9 文化センター利用状況	<p>事業別 (単位 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>鑑賞会 発表会</th> <th>研究会 講習会 演習会</th> <th>サークル 活動</th> <th>講 座</th> <th>そ の 他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>53,148</td> <td>6,526</td> <td>5,771</td> <td>1,626</td> <td>17,335</td> <td>84,406</td> </tr> </tbody> </table> <p>各部屋別 (単位 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>大ホール</th> <th>小ホール</th> <th>楽屋1~3</th> <th>音楽室</th> <th>会議室</th> <th>実習室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>28,831</td> <td>9,691</td> <td>1,630</td> <td>4,654</td> <td>3,535</td> <td>2,144</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>34.16%</td> <td>11.48%</td> <td>1.93%</td> <td>5.51%</td> <td>4.19%</td> <td>2.54%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>展示室</th> <th>作法室</th> <th>研修室1</th> <th>研修室2</th> <th>研修室3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,057</td> <td>686</td> <td>596</td> <td>1,154</td> <td>2,295</td> <td>84,406</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>3.62%</td> <td>0.81%</td> <td>0.71%</td> <td>1.37%</td> <td>2.72%</td> <td>100.00%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※展示催し物広場等：26,133人 (30.96%)</p>	内容	鑑賞会 発表会	研究会 講習会 演習会	サークル 活動	講 座	そ の 他	計	人数	53,148	6,526	5,771	1,626	17,335	84,406		大ホール	小ホール	楽屋1~3	音楽室	会議室	実習室	人数	28,831	9,691	1,630	4,654	3,535	2,144	%	34.16%	11.48%	1.93%	5.51%	4.19%	2.54%		展示室	作法室	研修室1	研修室2	研修室3	計	人数	3,057	686	596	1,154	2,295	84,406	%	3.62%	0.81%	0.71%	1.37%	2.72%	100.00%	<p>鑑賞会や発表会、講習会、各種サークル活動等に幅広く利用されており、住民の身近な施設としての役割りを果たしている。今後も施設の適正な維持管理に努め、利用しやすい施設づくりを目指す。</p> <p>令和5年度は、大ホール廊下等に手摺りを設置したほか、大小ホールの調光装置及びデジタル音響卓の修繕を行った。</p>
内容	鑑賞会 発表会	研究会 講習会 演習会	サークル 活動	講 座	そ の 他	計																																																				
人数	53,148	6,526	5,771	1,626	17,335	84,406																																																				
	大ホール	小ホール	楽屋1~3	音楽室	会議室	実習室																																																				
人数	28,831	9,691	1,630	4,654	3,535	2,144																																																				
%	34.16%	11.48%	1.93%	5.51%	4.19%	2.54%																																																				
	展示室	作法室	研修室1	研修室2	研修室3	計																																																				
人数	3,057	686	596	1,154	2,295	84,406																																																				
%	3.62%	0.81%	0.71%	1.37%	2.72%	100.00%																																																				
10 文化センター改修事業	<p>文化センター改修事業を次のとおり実施した。</p> <p>冷房設備工事 36,652,000円</p> <p>エレベーター更新工事 15,345,000円</p> <p>消火水槽フート弁更新工事 3,960,000円</p>	<p>利用者の利便性と安全性の向上を図るため、既に冷房設備が設置されていた大ホール、ふれあいホール等を除き全室に整備を行ったほか、油圧式エレベーターをロープ式エレベーターに更新した。また、消火水槽内の経年劣化した部品の交換を行った。</p>																																																								
11 図書、視聴覚の振興	<p>(1) 図書館の利用状況</p> <p>①図書の貸出状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>貸 出 冊 数</th> <th>貸 出 人 数 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>174,814</td> <td>40,488人</td> </tr> <tr> <td>分館</td> <td>18,259</td> <td>5,224人</td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>39,305</td> <td>1,016件</td> </tr> <tr> <td>市町村連携貸出</td> <td>562</td> <td>294件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>232,940</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②視聴覚教材の貸出状況</p> <p>(単位 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>貸 出 件 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教材 (ビデオ・DVD・CD)</td> <td>3,379</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	貸 出 冊 数	貸 出 人 数 等	図書館	174,814	40,488人	分館	18,259	5,224人	団体	39,305	1,016件	市町村連携貸出	562	294件	計	232,940		区 分	貸 出 件 数	教材 (ビデオ・DVD・CD)	3,379	<p>令和5年度は、前年度と比較すると図書の貸出冊数は1.2%増、貸出人数は3.5%増、入館者数は11.1%の増となっているが、新型コロナウイルス感染症発生前(平成30年度)と比較すると貸出冊数は12.3%減、貸出人数は14.3%減、入館者数は18.3%減となっている。</p> <p>今後、さらに新型コロナウイルス感染症が発生する前の利用状況に近づけるよう、各種事業や広報、ホームページ及び公式ツイッターなどを通して情報を発信し、図書館利用を促進する必要がある。</p> <p>また、子どもの利用状況については、新型コロナウイルス感染症発生前と比較して74.1%の利用となっているが、令和5年11月に運用を開始した電子図書館においては、小中学生の利用が約80%を占めていることから、「音更町子どもの読書活動推進計画(第3期)」に基づいた施策を展開するとともに、電子図書館を効果的に活用する必要がある。</p>																																		
区 分	貸 出 冊 数	貸 出 人 数 等																																																								
図書館	174,814	40,488人																																																								
分館	18,259	5,224人																																																								
団体	39,305	1,016件																																																								
市町村連携貸出	562	294件																																																								
計	232,940																																																									
区 分	貸 出 件 数																																																									
教材 (ビデオ・DVD・CD)	3,379																																																									

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																																									
11 図書、視聴覚の振興	<p>③入館者数 (単位 人)</p> <table border="1" data-bbox="488 312 987 424"> <tr> <td>図書館</td> <td>75,294</td> </tr> <tr> <td>分館</td> <td>9,875</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>85,169</td> </tr> </table> <p>④図書館の蔵書冊数等 (単位 冊)</p> <table border="1" data-bbox="488 513 1303 625"> <tr> <th colspan="3">令和5年度図書等受入数</th> <th rowspan="2">除籍冊数</th> <th rowspan="2">蔵書冊数</th> </tr> <tr> <th>購入</th> <th>寄贈</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>4,970</td> <td>737</td> <td>5,707</td> <td>5,482</td> <td>218,719</td> </tr> </table> <p>⑤電子図書館</p> <table border="1" data-bbox="488 689 987 801"> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>13,402冊</td> </tr> <tr> <td>貸出人数</td> <td>7,577人</td> </tr> <tr> <td>電子書籍総数</td> <td>13,026冊</td> </tr> </table> <p>(2) 図書館事業の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="488 865 1232 1497"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読書感想文コンクール</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>図書交換会</td> <td>164人</td> </tr> <tr> <td>古本市</td> <td>113人</td> </tr> <tr> <td>古雑誌市</td> <td>147人</td> </tr> <tr> <td>子ども映画会</td> <td>175人</td> </tr> <tr> <td>図書館ビデオ上映会</td> <td>111人</td> </tr> <tr> <td>人生を豊かにする講座(2講座)</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>エッセイ教室</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>絵本作家講演会</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>ロビーコンサート</td> <td>74人</td> </tr> <tr> <td>親子図書館見学会</td> <td>2組5人</td> </tr> <tr> <td>文庫設置</td> <td>小学校11校・学童保育所10カ所 ふれあい教室2カ所・へき地保育所6カ所</td> </tr> <tr> <td>ブックスタート</td> <td>225組</td> </tr> <tr> <td>ブックスタートプラス</td> <td>267組</td> </tr> <tr> <td>リーディングスタート</td> <td>322組</td> </tr> </tbody> </table>	図書館	75,294	分館	9,875	計	85,169	令和5年度図書等受入数			除籍冊数	蔵書冊数	購入	寄贈	計	4,970	737	5,707	5,482	218,719	貸出冊数	13,402冊	貸出人数	7,577人	電子書籍総数	13,026冊	事業名	参加人数等	読書感想文コンクール	43人	図書交換会	164人	古本市	113人	古雑誌市	147人	子ども映画会	175人	図書館ビデオ上映会	111人	人生を豊かにする講座(2講座)	47人	エッセイ教室	8人	絵本作家講演会	76人	ロビーコンサート	74人	親子図書館見学会	2組5人	文庫設置	小学校11校・学童保育所10カ所 ふれあい教室2カ所・へき地保育所6カ所	ブックスタート	225組	ブックスタートプラス	267組	リーディングスタート	322組	<p>ブックスタート事業については、参加者アンケートの結果では、事業をきっかけに絵本を手取る機会が増えた家庭が多くみられ、子どもの読書活動の推進にあたって大変効果的であるため、今後も継続していく。小規模小学校対象の移動文庫、大規模小学校の全学級を対象とした学級文庫、学童保育所を対象とした学童文庫についても好評であることから、新たにふれあい教室2カ所とへき地保育所6カ所にも文庫を設置したところであり、今後も各施設と連携しながら進めていく。</p> <p>また、令和5年11月に運用を開始した電子図書館については、図書館や分館が行っている図書の特集展示を電子図書館上でも同様のテーマでの特集を展開したり、図書館で電子書籍を活用した事業を開催するなど、図書館、分館、電子図書館の有機的な運用を図っていく必要がある。</p>
図書館	75,294																																																										
分館	9,875																																																										
計	85,169																																																										
令和5年度図書等受入数			除籍冊数	蔵書冊数																																																							
購入	寄贈	計																																																									
4,970	737	5,707	5,482	218,719																																																							
貸出冊数	13,402冊																																																										
貸出人数	7,577人																																																										
電子書籍総数	13,026冊																																																										
事業名	参加人数等																																																										
読書感想文コンクール	43人																																																										
図書交換会	164人																																																										
古本市	113人																																																										
古雑誌市	147人																																																										
子ども映画会	175人																																																										
図書館ビデオ上映会	111人																																																										
人生を豊かにする講座(2講座)	47人																																																										
エッセイ教室	8人																																																										
絵本作家講演会	76人																																																										
ロビーコンサート	74人																																																										
親子図書館見学会	2組5人																																																										
文庫設置	小学校11校・学童保育所10カ所 ふれあい教室2カ所・へき地保育所6カ所																																																										
ブックスタート	225組																																																										
ブックスタートプラス	267組																																																										
リーディングスタート	322組																																																										

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価										
(3) 社会体育の振興 1 体力づくり、健康づくりの振興	<p>楽しく継続的に体力づくりを実践する態度を育て、健康の維持増進に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="488 325 1240 1417"> <thead> <tr> <th data-bbox="488 347 1133 379">事 業 名</th> <th data-bbox="1133 347 1240 379">(単位 人) 参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="488 379 1133 539">○スポーツライフ ・幼児たいそう教室 (幼児教育) ・チャレンジスポーツ教室 (少年教育) ・いきいき女性軽スポーツ教室 (成人教育) ・40歳～64歳までの軽スポーツ教室 (成人教育) ・シニアスポーツ学級 (成人教育)</td> <td data-bbox="1133 379 1240 539">101 24 75 26 47</td> </tr> <tr> <td data-bbox="488 539 1133 1043">○スポーツ教室 ・こども体操教室 ・こどもHIPHOP教室 ・こどもトランポリン教室 ・短期子供体操教室 ・ジュニアトランポリン教室 ・初心者スケート教室 ・こども水泳教室 ・大人水泳教室 ・短期こども水泳教室 ・ひみつの特訓 ・ステップアップ教室 ・ジュニアステップアップ水泳教室 ・トップステップアップ水泳教室 ・ベビースイミング教室 ・個人レッスン (大人水泳) ・ちゃっぽん水泳教室 ・プライベートレッスン ・ジュニアプラス教室</td> <td data-bbox="1133 539 1240 1043">456 711 606 205 11 10 672 13,100 422 173 152 1,187 318 164 454 70 656 320</td> </tr> <tr> <td data-bbox="488 1043 1133 1177">○体力づくり教室 ・エアロビクス ・レッスンプログラム ・水中運動 ・軽運動教室</td> <td data-bbox="1133 1043 1240 1177">4,440 15,864 10,075 1,128</td> </tr> <tr> <td data-bbox="488 1177 1133 1417">○スポーツ大会 ・すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会 ・町民スケート大会 ・町民体育祭 (弓道、軟式野球、卓球、ソフトボール、パークゴルフ、フライング、ミニバレー、アーチェリー、バドミントン、ソフトテニス、柔道、剣道) ・秋のスポーツ大会 (軟式野球、卓球、ソフトボール、パークゴルフ、ミニバレー、アーチェリー、柔道) ・冬季スポーツ大会 (アイスホッケー、卓球、ソフトテニス)</td> <td data-bbox="1133 1177 1240 1417">170 122 877 549 162</td> </tr> </tbody> </table>	事 業 名	(単位 人) 参加人数	○スポーツライフ ・幼児たいそう教室 (幼児教育) ・チャレンジスポーツ教室 (少年教育) ・いきいき女性軽スポーツ教室 (成人教育) ・40歳～64歳までの軽スポーツ教室 (成人教育) ・シニアスポーツ学級 (成人教育)	101 24 75 26 47	○スポーツ教室 ・こども体操教室 ・こどもHIPHOP教室 ・こどもトランポリン教室 ・短期子供体操教室 ・ジュニアトランポリン教室 ・初心者スケート教室 ・こども水泳教室 ・大人水泳教室 ・短期こども水泳教室 ・ひみつの特訓 ・ステップアップ教室 ・ジュニアステップアップ水泳教室 ・トップステップアップ水泳教室 ・ベビースイミング教室 ・個人レッスン (大人水泳) ・ちゃっぽん水泳教室 ・プライベートレッスン ・ジュニアプラス教室	456 711 606 205 11 10 672 13,100 422 173 152 1,187 318 164 454 70 656 320	○体力づくり教室 ・エアロビクス ・レッスンプログラム ・水中運動 ・軽運動教室	4,440 15,864 10,075 1,128	○スポーツ大会 ・すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会 ・町民スケート大会 ・町民体育祭 (弓道、軟式野球、卓球、ソフトボール、パークゴルフ、フライング、ミニバレー、アーチェリー、バドミントン、ソフトテニス、柔道、剣道) ・秋のスポーツ大会 (軟式野球、卓球、ソフトボール、パークゴルフ、ミニバレー、アーチェリー、柔道) ・冬季スポーツ大会 (アイスホッケー、卓球、ソフトテニス)	170 122 877 549 162	<p>(スポーツライフ) 総合体育館と温水プールでは、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に運動やスポーツに親しむ機会を提供するため、各種事業を継続的に開催している。 スポーツライフでは、中・長期の教室等を実施しており、各教室の参加者同士が交流する場ともなっており、今後も継続が必要と考える。</p> <p>(スポーツ教室) スポーツ教室は、教育委員会が管理していた当時から実施しているものと、指定管理者が実施しているものがあるが、今後も住民のニーズを把握しながら、継続していくことが必要と考える。</p> <p>(体力づくり教室) エアロビクスや水中運動など、各年代や体力に応じたプログラムを実施している。民間のノウハウを生かした大人のためのスタジオプログラムは、指定管理者制度がスタートした平成18年度に比べ多くの人が参加している。今後も住民のニーズを把握しながら、プログラムを工夫していくことが必要である。</p> <p>(スポーツ大会) 町スポーツ協会とその加盟団体は、教育委員会と共催又は独自に町民大会などの「各種大会」を開催することで、日頃の練習成果を発揮し合い、参加者同士の交流と親睦を深めることができる機会の充実に努めている。今後も継続が必要である。</p>
事 業 名	(単位 人) 参加人数											
○スポーツライフ ・幼児たいそう教室 (幼児教育) ・チャレンジスポーツ教室 (少年教育) ・いきいき女性軽スポーツ教室 (成人教育) ・40歳～64歳までの軽スポーツ教室 (成人教育) ・シニアスポーツ学級 (成人教育)	101 24 75 26 47											
○スポーツ教室 ・こども体操教室 ・こどもHIPHOP教室 ・こどもトランポリン教室 ・短期子供体操教室 ・ジュニアトランポリン教室 ・初心者スケート教室 ・こども水泳教室 ・大人水泳教室 ・短期こども水泳教室 ・ひみつの特訓 ・ステップアップ教室 ・ジュニアステップアップ水泳教室 ・トップステップアップ水泳教室 ・ベビースイミング教室 ・個人レッスン (大人水泳) ・ちゃっぽん水泳教室 ・プライベートレッスン ・ジュニアプラス教室	456 711 606 205 11 10 672 13,100 422 173 152 1,187 318 164 454 70 656 320											
○体力づくり教室 ・エアロビクス ・レッスンプログラム ・水中運動 ・軽運動教室	4,440 15,864 10,075 1,128											
○スポーツ大会 ・すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会 ・町民スケート大会 ・町民体育祭 (弓道、軟式野球、卓球、ソフトボール、パークゴルフ、フライング、ミニバレー、アーチェリー、バドミントン、ソフトテニス、柔道、剣道) ・秋のスポーツ大会 (軟式野球、卓球、ソフトボール、パークゴルフ、ミニバレー、アーチェリー、柔道) ・冬季スポーツ大会 (アイスホッケー、卓球、ソフトテニス)	170 122 877 549 162											

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価										
2 指導者、リーダーの養成	<p>スポーツ指導者及びリーダーを養成するため次のとおり実施した。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">事 業 名</th> <th style="width: 20%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スポーツ少年団リーダー研修会</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ指導者研修会</td> <td style="text-align: center;">36</td> </tr> </tbody> </table>	事 業 名	参加人数	・スポーツ少年団リーダー研修会	8	・スポーツ指導者研修会	36	<p>(スポーツ少年団リーダー研修会) 所属のスポーツ少年団でリーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深めることを目的としており、今後も継続が必要である。</p> <p>(スポーツ指導者研修会) スポーツ活動の中核となるべき指導者を養成することは極めて重要であることから、今後も研鑽する場を提供することが必要である。</p>				
事 業 名	参加人数											
・スポーツ少年団リーダー研修会	8											
・スポーツ指導者研修会	36											
3 奨励及び顕彰	<p>スポーツの奨励と向上を図るため次のとおり実施した。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">事 業 名</th> <th style="width: 20%;">人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スポーツ大会参加補助 (全国 21件)</td> <td style="text-align: center;">52</td> </tr> <tr> <td>(全道 63件)</td> <td style="text-align: center;">254</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ賞等表彰 (個人)</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>(6団体)</td> <td style="text-align: center;">49</td> </tr> </tbody> </table>	事 業 名	人 数	・スポーツ大会参加補助 (全国 21件)	52	(全道 63件)	254	・スポーツ賞等表彰 (個人)	10	(6団体)	49	<p>(スポーツ大会参加補助) 全道・全国大会規模のスポーツ競技大会への参加者に対して参加経費の一部を補助している。スポーツ振興のため今後も継続することが必要である。</p> <p>(スポーツ賞等表彰) スポーツ賞等は、スポーツ基本法に基づき、毎年スポーツ分野において優秀な成績を収め、又はスポーツ推進に功績のあった個人又は団体を表彰している。</p>
事 業 名	人 数											
・スポーツ大会参加補助 (全国 21件)	52											
(全道 63件)	254											
・スポーツ賞等表彰 (個人)	10											
(6団体)	49											
4 スポーツヘルスケア推進事業	<p>運動習慣の定着や食生活の改善を促すため次のとおり実施した。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">事 業 名</th> <th style="width: 20%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・健康増進プログラム事業</td> <td style="text-align: center;">51</td> </tr> </tbody> </table>	事 業 名	参加人数	・健康増進プログラム事業	51	<p>(スポーツヘルスケア) 町民の健康意識の変容と運動習慣の定着を図るため、健康増進プログラム事業を委託事業として実施した。</p>						
事 業 名	参加人数											
・健康増進プログラム事業	51											
5 スカイアース連携事業	<p>交流イベントと体育授業サポート事業を実施した。</p> <p style="text-align: right;">(単位 人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">事 業 名</th> <th style="width: 20%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スカイアースサッカーフェスティバル in おとふけ</td> <td style="text-align: center;">38</td> </tr> <tr> <td>・体育授業サポート事業 (講師派遣7人)</td> <td style="text-align: center;">129</td> </tr> </tbody> </table>	事 業 名	参加人数	・スカイアースサッカーフェスティバル in おとふけ	38	・体育授業サポート事業 (講師派遣7人)	129	<p>(スカイアース連携事業) 音更町と北海道十勝スカイアーススポーツ(株)が「スポーツを通じた地域づくり」の実現に向けて包括的な連携協定を締結したことに伴い、町内のサッカー少年団を対象とした交流イベントの開催や、講師依頼のあった小中学校の体育の授業をサポートした。</p>				
事 業 名	参加人数											
・スカイアースサッカーフェスティバル in おとふけ	38											
・体育授業サポート事業 (講師派遣7人)	129											
6 地域おこし協力隊の配置	<p>地域おこし協力隊 (スポーツコーディネーター) 報酬 1名 2,147,496円 地域おこし協力隊活動費 1,603,898円</p>	<p>(地域おこし協力隊) 任用期間令和5年4月1日～令和6年3月31日 地域のスポーツを推進し、町の活性化、魅力の向上など地域力の創造、地方の再生を目的とし、スポーツを通じての地域おこしを行っている。中学校サッカー部訪問指導、幼児運動教室を実施した。</p>										

項 目 主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																																							
7 施設の利用状況	<p>(1) 屋内体育施設 (単位 人、件)</p> <table border="1" data-bbox="488 312 1182 453"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th rowspan="2">個人利用</th> <th colspan="2">団体利用</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合体育館</td> <td>52,900</td> <td>4,569</td> <td>86,774</td> <td>139,674</td> </tr> <tr> <td>武道館</td> <td>2,996</td> <td>868</td> <td>25,403</td> <td>28,399</td> </tr> <tr> <td>温水プール</td> <td>62,585</td> <td>183</td> <td>3,481</td> <td>66,066</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 軽スポーツセンター (単位 人、件)</p> <table border="1" data-bbox="488 513 1037 600"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴蘭軽スポーツセンター</td> <td>903</td> <td>10,300</td> </tr> <tr> <td>宝来軽スポーツセンター</td> <td>890</td> <td>10,004</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 運動公園等 (単位 人)</p> <table border="1" data-bbox="488 673 978 928"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希望が丘野球場</td> <td>4,292</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール場(1か所、2面)</td> <td>6,195</td> </tr> <tr> <td>サッカー場(1か所、2面)</td> <td>37,131</td> </tr> <tr> <td>テニスコート(3か所、10面)</td> <td>5,702</td> </tr> <tr> <td>アイスホッケー場</td> <td>2,274</td> </tr> <tr> <td>カーリング場</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>パークゴルフ場(5コース)</td> <td>46,719</td> </tr> <tr> <td>(うち団体利用)</td> <td>(9,675)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 学校開放事業 (単位 人)</p> <table border="1" data-bbox="488 1011 1339 1085"> <thead> <tr> <th>種目指定開放校(11校)</th> <th>地域開放校(6校)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47,619</td> <td>6,643</td> <td>54,262</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	個人利用	団体利用		計	件数	人数	総合体育館	52,900	4,569	86,774	139,674	武道館	2,996	868	25,403	28,399	温水プール	62,585	183	3,481	66,066	施設名	件数	人数	鈴蘭軽スポーツセンター	903	10,300	宝来軽スポーツセンター	890	10,004	施設名	人数	希望が丘野球場	4,292	ソフトボール場(1か所、2面)	6,195	サッカー場(1か所、2面)	37,131	テニスコート(3か所、10面)	5,702	アイスホッケー場	2,274	カーリング場	150	パークゴルフ場(5コース)	46,719	(うち団体利用)	(9,675)	種目指定開放校(11校)	地域開放校(6校)	計	47,619	6,643	54,262	<p>(屋内体育施設) 競技スポーツや生涯スポーツの場として、大会や少年団・サークル活動等で利用されている。</p> <p>(軽スポーツセンター) 鈴蘭、宝来の両軽スポーツセンターともに、町民の身近な施設として、サークル活動等に活発に利用されている。</p> <p>(運動公園等) 希望が丘運動公園等の屋外体育施設は、競技スポーツや生涯スポーツの場として、多くの大会や少年団・サークル活動等で利用されている。</p> <p>(学校開放事業) 学校開放事業は、スポーツ活動の場として小・中学校の体育館等の施設を開放している。種目指定校は、市街地の小・中学校とし、少年団・社会人等の団体等が利用している。地域指定校は、郡部の小学校とし、地域の少年団や団体が利用している。今後も社会体育の普及のため継続したい。</p> <p>(施設全般) 気軽に健康づくりやスポーツに取り組むことができる環境は整備されているが、競技志向の高まりから施設コンディションのグレードアップや施設の新設を望む声も聞かれ、今後の検討課題となっている。</p>
施設名	個人利用			団体利用			計																																																		
		件数	人数																																																						
総合体育館	52,900	4,569	86,774	139,674																																																					
武道館	2,996	868	25,403	28,399																																																					
温水プール	62,585	183	3,481	66,066																																																					
施設名	件数	人数																																																							
鈴蘭軽スポーツセンター	903	10,300																																																							
宝来軽スポーツセンター	890	10,004																																																							
施設名	人数																																																								
希望が丘野球場	4,292																																																								
ソフトボール場(1か所、2面)	6,195																																																								
サッカー場(1か所、2面)	37,131																																																								
テニスコート(3か所、10面)	5,702																																																								
アイスホッケー場	2,274																																																								
カーリング場	150																																																								
パークゴルフ場(5コース)	46,719																																																								
(うち団体利用)	(9,675)																																																								
種目指定開放校(11校)	地域開放校(6校)	計																																																							
47,619	6,643	54,262																																																							
8 指定管理者制度の導入	<p>次の社会体育施設について、指定管理者制度を導入している。</p> <p>(1) 温水プール 平成18年度～</p> <p>(2) 総合体育館・武道館 平成19年度～</p>	<p>指定管理者制度は、施設の効率的・効果的な運営を図るとともに、利用者に対してより良いサービスの提供に努めるものとして導入した。</p> <p>民間事業者のノウハウを活用して、町民の心身の健全な発達とスポーツの普及振興に寄与しており、今後も事業の充実に期待するものである。</p>																																																							
9 社会体育施設の整備	<p>社会体育施設の整備を次のとおり実施した。</p> <p>(1) 柳町河川緑地運動広場復旧事業 柳町河川緑地運動広場復旧整備工事 14,080,000 円</p> <p>(2) 軽スポーツセンター改修事業 鈴蘭軽スポーツセンター外壁及び屋根塗装工事 18,810,000 円</p>	<p>柳町河川緑地については、令和4年度に引き続き復旧工事を実施したほか、芝の吹き付けを行った。</p> <p>また、老朽化が進んだ鈴蘭軽スポーツセンターの外壁、屋根の塗装を行った。</p>																																																							

4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況

意見	対応状況
<p>【総合的な評価】</p> <p>音更町教育大綱「生きる力、支える力を育むまち」の実現に向け、「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱として各種事業が継続性・安定性を確保して推進されていることを評価したい。</p> <p>【教育委員会の活動状況】</p> <p>教育委員会会議の開催状況については、定例会以外にも臨時会を2回開催しているが、定例会の前後での持ち回りでの開催となっており、できるだけ会議での説明、審議ができるよう努める必要がある。</p> <p>会議の開催にあたっては、事前の議案配布や委員相互の意見交換の場の設定、付議案件以外の意見を提案する機会の確保など、教育委員会会議が効果的になるよう配慮がなされている。</p> <p>また、教育委員の学校訪問は、各学校の教育活動の現状や課題、成果などを具体的に把握し、学校との信頼関係や連携の強化を図るうえで効果的な取組である。今後も感染対策に留意しつつ、教育行政の円滑かつ確実な実施に向けた取組が期待される。</p> <p>【重点的な評価】</p> <p>〈確かな学力の向上〉</p> <p>児童生徒の学力の確かな向上に向けては、基礎的・基本的な知識や技能はもとより「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を含めた幅広い学力を育てることが重要である。</p> <p>学力については、全国学力・学習状況調査の結果の分析により得られた知見を元に課題を整理し、学力向上に向けた学習指導法の改善や児童生徒自身の学び方の改善に寄与することが期待</p>	<p>教育大綱に掲げる「生きる力、支える力を育むまち」の理念に基づき、豊かな心と郷土愛を持つ人づくりを進め、高齢者や働く世代なども巻き込んだ地域全体で子どもたちの生きる力を育み、充実した町民生活を目指すため、「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱とし、あらゆる世代が学び続けることができる教育行政の推進を図っていく。</p> <p>教育委員会会議の開催に当たっては、教育行政に関する諸課題を幅広く取り上げるとともに意見交換の場を設け、活発な議論を行っている。臨時会を開催する場合は、工事請負契約の締結や町議会臨時会に提案する案件に関するものなど、音更町教育委員会会議規則の規定に則った取扱いとしており、必要に応じて教育に関する意思決定を迅速かつ効果的に行っている。</p> <p>学校訪問では、「子どもが主語となる授業改革の取組」をテーマとし、それぞれの課題・対応について把握を行った。各学校では、児童生徒が自主的に学ぶ時間の充実を図るための工夫や個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組などについての説明を受け、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりなどについて意見交換している。</p> <p>児童生徒が探究したい課題を設定し、目標を実現するための学習活動を適切に位置付け、教師は助言や情報提供などファシリテーターに徹し、学習のまとめと振り返りによる「学びの調整」を促す「子どもが主語」となる授業改革に取り組んでいる。</p> <p>令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症に移行し、学校</p>

意見	対応状況
<p>されるが、令和4年度の調査では、小学校6年生は国語・算数ともに全国・全道平均を下回り、観点別正答率を見てみると、国語・算数の「知識・技能」「思考・判断・表現」が低い傾向にある。中学校3年生は、前回調査に引き続き、国語・数学ともに全国・全道平均を上回っており安定的な傾向が認められる。</p> <p>学力の向上に向けて、各学校では少人数指導や習熟度別指導などきめ細かな指導で基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図ることが、特に、一斉授業で困り感を持っている学力低位層の児童生徒にとって重要な取組となる。本町では、町費負担教諭の配置による少人数学級編成や、特別支援教育学習支援員の増員など、指導体制の充実が図られているが、更に、習得した知識・技能を活用し、課題解決的な学習や発展的な学習、体験的な活動を通して、児童生徒一人ひとりが主体的に学習する態度を身に付けるなど、個に応じた学びの充実を目指した授業改善の推進に期待したい。</p> <p>また、小学校においては授業以外の学習時間がやや少ないことから、家庭・保護者と連携しながら、早い段階から学習時間の目安や睡眠時間、食事時間などを設定した基本的な生活習慣を整えるとともに、「家庭学習のすすめ」等を活用し、正しい学習習慣が確立されることを期待したい。</p> <p>(健やかな体の育成)</p> <p>健やかな体の育成は生涯発達や生きる力の醸成においても大きな関わりを持ち、心身の調和的発達を図るためには、運動を通して体力を養うとともに、望ましい健康な生活習慣を形成することが重要である。</p> <p>小学5年生と中学2年生を対象に実施された「全国体力・運動能力調査」結果によると、小</p>	<p>教育活動における様々な制限が解除されたことにより、各学校では、子ども同士が意見を交流し協力して課題を解決する場面を一層充実させるなど、子どもたちの社会的スキル向上に向けた取組を推進している。</p> <p>各学校では、令和5年度においても全国学力・学習状況調査を実施し、結果の分析・検証を行っている。</p> <p>各学校においては、チャレンジテストの活用や補充学習等による習熟度に応じた児童生徒の学力の向上に努めているほか、小中学校の円滑な接続を進めることにより、学びの連続性の確保に努めている。</p> <p>また、指導方法工夫改善や少人数学級実践研究事業など各種の教職員加配の活用をはじめ、町費負担教諭や学習支援員の配置を継続し、きめ細かな学習サポートを進めている。</p> <p>学校現場における授業改善については、小中学校においてタブレット端末の学習支援ツールを活用した授業を実践しているほか、町内6小学校においては、「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」の加配教員による学級担任とのティーム・ティーチングや令和5年度に町内全小学校に導入した学習支援アプリを効果的に活用するとともに、町内全体への事業の成果の普及に努めている。</p> <p>子どもたちの学力向上や家庭学習の習慣化に向けて、「家庭学習のすすめ」を改定し、家庭に配布したほか、子どもたちの学習環境を整え、学習習慣を確立することについて、学校及びPTAとの連携を図っている。</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果に基づき、年間指導計画に沿った学校全体の体力づくりを実施している。</p> <p>児童生徒の体力向上に向けて、各学校では、新体力テストを年間指導計画に複数回位置付け検証改善に生かしているほか、子どもたちが新体力テスト結果をタブレット端末に入力し、自</p>

意見	対応状況
<p>学校5年生では、男子の体力合計点は全国・全道平均を上回っているが、女子は全国・全道平均を下回っており、中学校2年生の体力合計点は男女ともに全道平均は上回るものの、全国平均を下回る結果となっている。</p> <p>音更町教育研究所の「音更町の子どもの体力と今後の取組」の分析では、小学校男子は「50m走」、小学校女子は「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」、中学校男子は「長座体前屈」「反復横とび」、中学校女子は「握力」「反復横とび」に課題があるものとされており、これらの分析・課題抽出した結果が組織的な体力向上の取組に反映されることが期待される。</p> <p>また、運動習慣の状況等に関しては、「運動が好き」「体育（保健体育）の授業が楽しい」と回答した割合が、小学校では全国・全道平均と同程度か下回っていることから、放課後や休み時間など運動機会を増やし、運動量の増加や運動の習慣化を図ることが必要である。一方、中学校では男女とも全国・全道平均を上回っており、保健体育への興味・関心が高く、体力向上への意識が高いと思われる。</p> <p>今後とも、自校の課題を把握し、教科による指導はもとより体育的行事や運動部活動など教育活動全体で体力向上に向けた取組を推進することが大切である。</p> <p>（豊かな心の育成）</p> <p>社会状況の急激な変化により、人と人との関りが希薄となる中、豊かな心を育成するため、道徳教育や多様な体験活動の充実、読書活動の推進などを通じて他者を思いやり、自己肯定感をもち、人間関係を築くことのできる心の教育の充実を図ることが重要である。</p> <p>「いじめに関する実態調査」によると、「嫌な思いをした（いじめられた）ことがある」と回答した児童生徒は平成30年度以降減少傾向にあるが、一方で「いじめはどんな理由があっても許されない」との質問に「そう思わない」「よ</p>	<p>己の変容を見取る取組を行っている。</p> <p>また、児童会等が主体となった体力向上に向けた取組として、小学校では中休みや昼休みにおける外遊びを推奨するなど、授業以外においても子どもの体力向上を図り、健康教育を組織的に実践している。</p> <p>家庭における生活習慣等については、新体力テストの分析結果等の情報を各家庭に提供することにより、健康的な生活習慣の形成を図り、体力・運動能力や学習意欲の向上に努めている。</p> <p>各学校では、「考え、議論する道徳」の実施の充実やいじめを許さない心の育成等に向けた取組として、中学校区の学校間や複式校間でのオンライン道徳の実施、人権擁護委員による人権教室等を開催している。</p> <p>いじめについては、未然防止と早期発見・早期解消のため、心の教室相談員や学校教育相談員の配置、北海道教育委員会のスクールカウンセラー活用事業に加え、令和5年度、スクールカウンセラー1人を教育委員会に配置し、相談体制の充実を図ったほか、各学校においては、教職員に加え、</p>

意見	対応状況
<p>くわからない」と回答した児童生徒も一定数いることから、「特別の教科 道徳」の着実な実施による道徳教育の充実や差別解消に向けた人権教室開催等、人権教育の推進、健全な発達に資する体験活動の実施など粘り強く指導を継続するとともに、インターネット上でのいじめへの対応の強化にも注視していく必要がある。</p> <p>また、いじめには家庭環境や貧困、発達障がいなど様々な背景があり、福祉的な支援を要する場合も多いことから、各機関・関係者との連携体制を強化し、予防的ないし深刻化しないうちに対応できる体制作りが求められる。</p> <p>不登校については児童生徒数が減少していく中、令和4年度も増加傾向にあり、小学校50人、中学校133人で、対前年度比で約1.23倍、平成30年度との比較では2.65倍となっている。</p> <p>不登校は人間関係や無気力、不安など様々な要因が複雑に絡んでおり、解決に時間も要することから、それぞれの状況に応じた適切な相談先や多様な教育機会の確保、児童生徒の発達や特性を踏まえた対応が重要である。また、自己の存在感や精神的な充実感が得られる「心の居場所」を確保するため、学校復帰の足掛かりとなる教育支援センター（ふれあい教室）の一層の充実を期待する。</p> <p>いじめや不登校の未然防止に向けては、ハイパーQ Uアンケートの実施・分析結果も効果的に活用しながら、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門スタッフの配置による相談体制の強化を図るとともに、相談室や保健室など学校生活に適応しやすい校内の「居場所」の確保など、様々な視点からの意見を踏まえ、各学校の実情に応じた柔軟な対応で、児童生徒の心の育成に繋げてほしい。</p>	<p>保護者や地域とも連携し、問題解決に取り組んでいる。</p> <p>令和5年10月から11月にかけて実施した「いじめに関するアンケート調査」では、小学生2,185人、中学生1,322人に協力いただき、「いやな思いをしたことがある」と回答した小学生が454人（20.8%）、中学生が43人（3.3%）であり、そのなかで今でも続いていると答えた小学生が251人（55.3%）、中学生が22人（51.2%）となっている。各学校の教育相談により令和5年度末までに解消している。小学校は減少傾向にあったが、令和5年度は増加している。中学校は横ばい傾向となっている。</p> <p>「いじめはどんな理由があっても許されないこととは思わない」と回答した小学生の低学年が23人（3.5%）、中・高学年で53人（3.5%）、中学生で15人（1.1%）となっているが、いじめは児童生徒の心身の健全な発達に重大な悪影響を及ぼし、不登校や自殺などを引き起こす背景ともなる深刻な問題であることから、「そう思う」の回答率が100%となるよう今後も指導を継続する。</p> <p>また、インターネット上のいじめの未然防止・早期対応を図るため、各学校では情報セキュリティ教室を開催しているほか、北海道児童生徒ネットコミュニケーション見守り活動事業によるネットパトロールを実施している。</p> <p>福祉的な支援を必要としている児童生徒については、定期的に開催している音更町要保護児童対策地域協議会の中で、帯広児童相談所、十勝総合振興局（社会福祉課）、町の福祉部局等の関係機関と支援策等を協議しながら対応にあたっている。</p> <p>不登校については、221人と増加傾向で推移しており、このうち約半数が、前年度においても不登校であった。スクールカウンセラー、心の教室相談員、教育支援センター指導員及び学校教育相談員の活用により、児童生徒の不登校に対しての早期の対応と、個々の児童生徒の状態に応じた指</p>

意見	対応状況
<p>【教育行政推進における主要な施策の実施状況】</p> <p>(文教対策)</p> <p>教員研修については、コロナ禍の中で研修会の中止を余儀なくされ、参加し難い状況にあったものの、リモート開催で実施される研修等への参加など、制約の多い中で研修の機会が確保されている。</p> <p>開かれた学校づくりについては、「地域とともにある学校」への転換を図る有効な仕組みである「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」が町内全小中学校に設置されたことは評価できるが、大きな制度改革であることから、数年後を見据えた取組になるよう期待したい。</p>	<p>導や段階的な関わりを行っている。また、学校内の連携はもちろんのこと、関係機関との連携を図り、保護者も含めたサポート体制の充実に取り組んでいる。</p> <p>不登校傾向の児童生徒が学校生活への復帰を含め将来に向けて社会的に自立していく力を養うための支援などを目的に町内2か所に設置している教育支援センターのうち、ふれあい柳町教室「ほっと」においては、通級指導に加え、自宅から参加可能なオンライン上のコミュニティ「ほっとオンライン」による支援の充実に図っている。</p> <p>いじめや不登校につながる児童生徒の状況の早期把握と、学級集団と個の分析のため、ハイパーQ Uの取組を継続している。また、結果の読み取り方や分析の方法、結果を活用し学級経営に生かすための教員に対する研修会を行ったほか、教育委員会でも独自に結果を分析し、学校教育相談員による学校訪問時に、その分析結果を学校に提示している。</p> <p>コロナ禍で進展したICTを活用した研修環境の充実により、道内で実施する研修の多くがリモートで開催されており、研修参加の機会は増加している。また、校内研修実践指定校事業などを通じ、各学校で創意工夫された校内研修をしているほか、教育推進員や十勝教育局の指導主事による学校訪問等の活用を図り、学校に対しアドバイスをすることで、授業改善への手助けを行い、教職員の資質能力の向上を図っている。</p> <p>令和4年度にすべての小中学校がコミュニティ・スクールに移行し、地域と学校の連携体制を強化する基盤が整った。開かれた学校づくりを進めるためには住民の声を学校に反映し、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めることが重要であるため、今後も地域全体で子ども</p>

意見	対応状況
<p>情報教育については、GIGAスクール構想に沿った学校現場のICT化が進んでおり、教職員や児童生徒に一人一台のタブレット端末と高速通信ネットワークが整備され、情報活用能力の育成、理解状況や能力に合った学習の提供などに取り組まれているが、教員個々のICT活用能力による授業の質に差が出る可能性や情報モラルの育成、セキュリティ対策、適切なソフトウェアの準備、タブレットの多用による健康上の問題など注意すべき点も多い。今後は、対話型人工知能（AI）の「チャットGPT」の活用などより高度なICT機器の活用に向けて迅速で柔軟な対応を期待したい。</p> <p>国際理解教育については、小中学校における国際理解教育の向上や英語によるコミュニケーションの充実、地域における国際交流活動など、幅広い活動を担っている英語指導助手（ALT）増員も含め、「生の英語」を子どもたちに伝え、英語に触れる機会の拡大・充実に期待したい。</p> <p>特別支援教育については、相談支援も含めた総合的な対応の充実が求められるところだが、特に通常学級に在籍しながらも、行動面や学習面に困難を抱える子どもたちをサポートする体制の充実を図る観点から特別支援教育学習支援員の更なる増員を期待したい。</p>	<p>もたちを支え、育てるための取組を支援していく。</p> <p>また、「学校を核とした地域づくり」を目指す地域学校協働活動については、ふるさと教育を中心に令和5年度から活動を本格化し、実施数の実績は、小学校で396件、中学校で73件、合計469件となった。</p> <p>各学校には、地域で活躍する専門的な外部講師リストを配布することで、教職員の負担軽減と多様な学習機会の提供につながっており、今後も内容の充実に努めていく。</p> <p>学習指導要領においては、「情報活用能力」の育成が「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられており、各学校では、児童生徒が探究したい課題の設定による授業の実践のほか、主体的に学習に取り組む態度を育成できるようICT機器の効果的な活用を図っている。</p> <p>タブレット端末の貸出しや活用に関わっては、子どもたちがデジタル社会のよき担い手になれるよう、デジタルツールを正しく理解し活用することに関するリーフレットを作成し家庭に配布するなど、学校と連携の上、デジタルシティズンシップの考え方を踏まえた情報リテラシーの向上を推進している。</p> <p>小中学校における国際理解教育においては、外国語指導助手を2人配置しているほか、小学校における外国語活動を補助するため外部サポート講師を派遣するなど、児童生徒の英語力向上や国際理解の促進を図っている。</p> <p>通常学級等に在籍し、発達障がい等により特別な支援を要する児童生徒の学習活動及び学校生活上の支援を行うため、複式校を除く小中12校に35人の特別支援教育学習支援員を配置している。</p> <p>また、町で使用する「個別の教育支援計画」の標準様式を定め、障がいのある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握することや長期的な視点で一貫した的確な教育的支援を行うこと</p>

意見	対応状況
<p>(社会教育の振興)</p> <p>社会教育については、一部でコロナ禍の影響が見られるものの、令和3年度に比べ各種事業が実施できている。こども姉妹町視察研修は、令和3年度に引き続き代替事業の実施となったが、北部3町ジュニアリーダーズキャンプも開催されており、少しずつではあるがコロナ禍以前の状態を取り戻しつつある。</p> <p>放課後子ども教室の登録人数・実施日数・参加人数も増加しており、今後も地域住民などの参画による学習支援や体験活動、スポーツ活動などを保証する地域ボランティアの養成に加え、農村部での開催について検討・実施が期待される。</p> <p>図書、視聴覚の振興については、コロナ禍により減少傾向にあった図書館の入場者数・貸出冊数に回復の兆しがみられる。読書は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、人生をより深く生きるために大切なものである。子どもが初めて本と出会う家庭において読書に親しむ気持ちを醸成することが大切であることから、10ヵ月児と2歳児対象のブックスタートや新入学児対象のリーディングスタートは保護者と子どもにとって読書習慣の確立に効果的な取組であり、是非継続して欲しい。</p> <p>(社会体育の振興)</p> <p>少子高齢化の社会において、健康増進や体力の向上、人格の形成に資する運動の習慣化は重要であり、それぞれのライフスタイルや年齢、体力、目的などに応じた環境の充実が必要となる。体力づくり、健康づくりの振興に関しては、スポーツライフ、スポーツ教室、体力づくり教</p>	<p>など、特別支援教育の更なる充実を図っている。</p> <p>こども姉妹町視察研修は令和5年度から相互研修を再開し、各種事業においても、予定どおり実施した。また、オンラインを活用したイベントや講座において、O O J C オープンカレッジのZ O O Mによる受講者数や、はたちの集いのY o u T u b e チャンネルの閲覧数が多いことから、これらについては継続し、多様なニーズに合わせた学習機会の提供、充実を図っていく。</p> <p>放課後子ども教室は、ボランティア団体やサークル団体に声掛けをして、地域ボランティア募集を強化したが、今後も幅広い層に働きかけ、ボランティア養成に努める。また、農村部小学校4校については、令和5年10月から試行的に開設し、町内全11小学校での開催となった。今後も、各学校のニーズに沿った内容に努める。</p> <p>早期にコロナ禍以前の利用状況に回復するよう、ロビーコンサートや古本市など各種事業を展開するとともに、広報やホームページをはじめ、公式X(旧ツイッター)などにより事業案内や新着図書などの情報発信に努めている。</p> <p>子どもの読書活動については、「音更町子どもの読書活動推進計画(第3期)」に基づき、ブックスタート事業などにより親子の読書を推奨しており、今後も継続していくとともに、令和5年11月に運用を開始した電子図書館は、小中学生の利用が多いことから、学校司書などと連携して利用サポートを行うなど、効果的な運用に努めている。</p> <p>総合体育館や温水プールの指定管理者、スポーツ協会、北海道十勝スカイアーススポーツ株式会社などとの連携協力により、多くのスポーツ教室やスポーツイベントを行っているが、前年度と比較し、参加人数の増加が見られる事業も出てきている。今後も幼児から高齢者まで幅</p>

意 見	対応状況
<p>室などが展開されているが、特にこども HIPHOP 教室や大人水泳教室、ジュニアステップアップ水泳教室など前年度に比べ大幅に参加人数の増加がみられる事業もあり、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の町民が目的に応じ各スポーツ教室などに参加し、各施設を利用していることが伺える。</p> <p>特に、総合体育館と温水プールの利用頻度が高く、その要因として、指定管理者やスポーツ協会、北海道十勝スカイアースなどと連携した事業推進の成果であると思われる。</p> <p>今後も町民のニーズの把握に努め、指導者の人材育成を進めるとともに、高齢社会を背景とした生涯スポーツの重要性や、障がい者スポーツも脚光を浴びていることを踏まえ、経年的な劣化やバリアフリーなど社会的要請に応えた運動施設の設置・更新が期待される。</p>	<p>広い年代の方々がスポーツに親しみ、生涯にわたってスポーツを通じ、心身の健康とスポーツの楽しさを体験できるよう多様な事業を展開していく。</p> <p>スポーツ指導者の育成については、各スポーツ団体と連携し、指導者研修会などを行い、指導力向上と人材育成に努めていく。</p> <p>高齢者や障がい者など誰もが利用できるスポーツ施設の整備については、新規設置時や更新時にはバリアフリーに十分配慮し、生涯に渡りスポーツに親しみ、体力づくりを行える環境を整えていく。</p>

Ⅱ 学識経験者の意見

帯広大谷短期大学教授 佐藤 英晶

1 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議の開催状況については、定例会以外にも臨時会を令和5年6月、8月、9月、12月の4回開催している。臨時会については、6月を除く3回が持ち回りでの開催となっており、通常想定されない事項が生じ緊急に対応が必要な場合を除き、できるだけ対面にて説明、審議できるよう努める必要がある。

一方、例年、会議の開催に当たっては、各委員に議案・資料等の事前説明を行っており、定例会においてより活発な審議につながるよう配慮がなされている。また、事前に委員相互の意見交換の場の設定や付議案件以外の意見を提案する機会を確保するなど、教育委員会会議が効果的になるよう配慮もなされている。

令和5年度は、対面での会議機会の確保がなされており、新型コロナウイルス感染症による影響は、十分な感染対策により最小限に止まっている。しかし、依然として感染者数は増減を繰り返していることから、引き続き感染対策に留意しつつ、教育行政の円滑かつ確実な実施に向けた取組が期待される。

2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上

児童生徒の学力の確かな向上として、基礎的・基本的な知識及び技能の習得やそれを活用する力を育むことが重要な課題である。令和5年度については、前年度同様、子どもの学力の傾向を把握・分析する取組として全国学力・学習状況調査を実施しており、その分析により得られた知見を元に課題を整理し、児童生徒の学力向上に向けた学習指導法の改善や児童生徒自身の学び方の改善に寄与することが期待される。

今回の調査の結果からは、児童生徒の学力の改善はみられておらず、質問紙の結果も経年比較では学習面に関する項目で前年を下回る結果も多くみられ、学力の維持・向上に向けた一層の取組が求められる。

特に小学校においては、全国学力・学習状況調査の結果からは国語・算数ともに全国・全道平均を下回る状況が継続しており、重点的な対策を講ずる必要性が認められる。

また、中学校では、前年及び前々年は全国学力・学習状況調査の結果は国語・数学ともに全国・全道平均を上回っていたが、令和5年度は両科目ともに全国平均を下回っており、4年ぶりに実施された英語も全国・全道平均を下回るなど、小学校と同様な傾向がみられることから、小学校から学習習慣を身に付けるような働きかけや学習意欲の向上に向け

た取組が期待される。

その他、学校現場における教育体制の充実は大きな課題の一つであるが、町費負担の教諭配置については、前年度は35人を超える学級を有する小学校に対する配置に加え、令和4年度から小学校1・2年生を対象に30人を超える学級にも配置するなど、少人数学級の実現を更に充実させている。また、特別支援教育学習支援員の段階的な増員や、複式教育学習支援員の配置と合わせ、教育にかかわる人材の充実が図られている。

(2) 健やかな体の育成

令和5年からは、新型コロナウイルス感染症の5類化に伴い、外出の機会、運動の機会の減少に歯止めがかかっているが、それまでの長期にわたる社会生活上の制約がもたらす児童生徒の体力・運動能力への影響が後年続くことも懸念される場所である。現在でも一部では、身体的接触のあるスポーツや団体競技など、感染リスクの高いスポーツはもとより、マスク着用での運動には大きな制約が伴っているケースも残っている。健やかな体の育成は生涯発達や生きる力の醸成においても大きな関わりを持つが、特に身体能力の基礎は学童期から青年期にかけ大きく成長し、児童生徒の健やかな体の育成は生涯にわたり影響を及ぼす。そのため、長期にわたる社会生活上の制約がもたらした児童生徒の体力・運動能力への影響から脱し、児童生徒の体力・運動能力の回復を図ることにより、その発達・成長を学校教育の中で支えていくことが重要である。

本町においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を小学校5年生及び中学校2年生を対象に悉皆調査を実施し、児童生徒の体力・運動能力を分析し、その向上に努めている。また、小学校における体育エキスパート教師による体育授業の充実を図っている。令和4年度の調査結果からの課題については、令和3年度とほぼ同様の傾向を示しており、前年の課題を積み残した結果となっている。また、前年に全国または全道平均を上回っていた種目が全体的に減少しており、体力・運動能力の低下が鮮明になっている。

小学校5年生男子については、握力、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げにおいて全国平均を上回る向上がみられた。一方、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走については、全国平均を下回り、前年よりも下回る種目も増えている。小学校5年生女子については、令和3年度に全国平均を下回った立ち幅とびとソフトボール投げが全国平均を上回ったが、それに加え握力、反復横とびも全国平均を上回った。一方、前年同様20mシャトルラン、長座体前屈、50m走が全国平均を下回ったままとなっている。また、前年は全国・全道平均並みであった上体起こしが全国・全道を下回り、新たな課題となっている。

中学校2年生男子は、令和3年度に全国平均と同等か上回る結果となった握力、上体起こし、立ち幅とび、ハンドボール投げについては、ハンドボール投げ以外は全て再び全国平均を下回る結果となっている。また、50m走は前年同様、全国平均を下回ってしまい、

持久走、20mシャトルランのスコアは全国平均を上回っているものの、9種目中6種目が全国平均を下回り、大きく全国平均を下回る種目もあるなど課題がみられる。中学校2年生女子については、令和3年度に全国平均を上回った立ち幅とびが再び全国平均を下回った。ハンドボール投げについては、今年度も全国平均を上回る結果となっている。一方、昨年、持久走、50m走は全国平均を下回ってしまい、20mシャトルランのスコアは全国平均を上回っているものの、令和元年度と比較し大きく低下している点は変わらず課題が残る。9種目中7種目が全国平均を下回り、体力・運動能力の低下が鮮明である。

中学生は男女ともに全国平均を下回る種目が多く、重点的な対策を講じる必要性があると考えられる。今後、これらの分析・課題抽出した結果が、組織的な体力・運動能力向上の取組に反映されることが期待される。

(3) 豊かな心の育成

これまで、いじめ・不登校は全国・全道ともに増加傾向にあり、文部科学省が取りまとめた、令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（令和5年度調査）では、いじめの認知件数に関して大幅な増加がみられ、不登校の児童生徒数も同様の傾向となっている。本町においては、令和5年度いじめに関する実態調査のアンケートの結果からは令和3年度に微減し、令和4年度に大幅な減少となっていたが、再び増加し始めており、推移を注意深くみていく必要がある。本町の傾向は全国・全道的な傾向とは異なり大幅な増加は示していないものの、今後、同様の傾向を示す可能性も少なくないと考えられ、いじめ・不登校の未然の防止に向けた対応を早急に強化していくことが重要と考える。

また、いじめ・不登校については児童生徒数が減少していく中、増加傾向を示しており、発生件数の対前年比での比較よりも、児童生徒100人当たりの発生件数を経年比較する必要がある。児童生徒数が減少している中で、不登校の児童生徒の増加傾向が加速している点では、新たな対策を講じる必要があると思われる。また、既に不登校となっている児童生徒に対する支援として、教育支援センター等の教育資源の活用が重要であるが、令和5年度の不登校の児童生徒数221人に対して、教育支援センター通級者数は47人と21%強の利用率となっており、前年を下回っている点も課題である。

また、いじめには家庭環境や貧困、発達障害など様々な背景があり、福祉的な支援を要する場合も多い。不登校についても同様であり、スクールソーシャルワーカーを配置している点では、道内の他の自治体に先んじた取組であるといえる。いじめ・不登校の増加が懸念される中、今後は要援助案件の増加や深刻化に応じ、勤務時間数の確保や人員の増員等、必要に応じた対応の迅速な実施が期待される。

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教対策

教員研修については、対面での研修会の実施も新型コロナウイルス感染症の5類移行により、その機会が増えたことやリモート開催で実施される研修等への参加など、多様な研修参加の機会を確保できている。

国の進めるGIGAスクール構想に沿った学校現場のICT化が進んできており、教職員や児童生徒に一人一台のタブレット端末の整備が行われたが、今後、その機器の更新に合わせ、学習コンテンツの見直しや活用方法の再検討など遠隔授業のみならず、多様な学習機会の創出に寄与できるよう、新たなICT機器の活用に向けた取組が期待される。

その他、ICT機器の活用に関しては、セキュリティーの問題や児童生徒の利用方法での課題も多い。インターネットの活用に関するリテラシーの醸成も重要と考える。

(2) 社会教育の振興

社会教育に関しては、青少年教育事業として行っているこども姉妹町視察研修や中学生リーダー研修会といった、コロナ禍の影響で一部中止となっていた研修会の再開などがみられる。令和5年度は、こども姉妹町視察研修について、それまで代替事業の実施となっていたが、相互派遣を再開し実施しているなど、コロナ禍以前の状態を取り戻している。

青少年対策として行われている放課後子ども教室の実施に関しては、令和2年度、令和3年度とコロナ禍の影響により実施回数的大幅な減少を余儀なくされたものの、令和4年度から開催回数、参加人数ともに増加し、令和5年度においては農村部4校での開催を試行的に実施し、昨年の課題であった農村部での開催の検討・実施を実現している。

(3) 社会体育の振興

体力づくり、健康づくりの振興に関しては、スポーツライフ、スポーツ教室、体力づくり教室などが展開されているが、特にこどもHIPHOP教室や大人水泳教室、こども水泳教室など前年度に比べ大幅に参加人数の増加がみられる事業もある。一方、参加人数が減少している事業も少なくなく、減少幅の大きなものもあり、事業のリニューアルなど参加者確保に向けた取組が必要である。これまで長期にわたり活動を休止している町民も少なくないことから、体力の低下や生活習慣病などの懸念は大きい。そのため運動習慣の定着に向けたインセンティブを図る必要があると考えられる。

その他、毎年指摘しているところであるが、本町は運動公園など運動施設が充実し、様々なスポーツに対応した設備が整っているが、経年的な劣化やバリアフリーなど社会的要請に応えた運動施設の設置・更新が期待される。スポーツ愛好家が町外の施設を利用しなければならない状況は改善すべき課題である。また、全国的には高齢社会を背景に生

涯スポーツの重要性も高まってきており、近年は障がい者スポーツも脚光を浴びている。
こうした点からはバリアフリーを考慮した運動設備の整備を期待したい。

1 教育委員会の活動状況

音更町教育大綱「生きる力、支える力を育むまち」の理念の下、「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱とし、本町の教育資源を有効に活用しながら、継続性と安定性のある教育行政が推進されていることを評価したい。

教育委員会会議においては、事務局が各委員に議案・資料等の事前説明を行ったり、委員が付議案件以外にも意見を述べる場を設けたりするなどの工夫により、活性化が図られている。

教育長、教育委員、事務局職員による学校訪問は、学校の現状や教育活動の成果と課題を把握し、学校運営を支援するための重要な取組である。また、訪問は毎年、重点テーマを設定した上で行われている。これは、教育委員会と学校が、直面する教育課題を共有できる効果的な手立てである。

町民への情報提供の状況については、ホームページを活用し、学校教育、給食、ICT教育、教育支援、教育行政等、教育委員会の取組を詳細に掲載している。今後も掲載情報の更新に留意しながら内容の充実を図っていただきたい。SNSの普及が目覚ましい現在、ホームページのみならず、公式ライン、X、インスタグラムなど様々な手段を駆使した情報発信の更なる充実が必要である。

2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上

「生きる力」の基盤となるのが確かな学力である。基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、それらを活用できる学力を育むことが重要である。

学力向上の取組については、全国学力・学習状況調査により、本町の児童生徒の学力の傾向を把握し、学習指導の改善等に資する基礎資料を提示している。また、個に応じたきめ細かな学習指導を行うため、学習支援員、複式教育学習支援員、町費負担教諭を配置している。家庭との連携も大切なことから、「家庭学習のすすめ」を改訂し、児童生徒及び家庭に配布している。さらに小学校に学習支援アプリを導入し、タブレット端末の効果的な活用を促進している。このように学力向上を目指して、様々な取組が行われている。

各学校においては、全国学力・学習状況調査や標準学力検査の分析結果に基づいて学校改善プランを作成し、組織的に学力向上に取り組んでいる。また、分かる授業を実現する授業改革やICTを活用した子どもが主体的に学ぶ授業を展開している。

本町の小学校6年生と中学校3年生の学力の状況については、令和5年度の全国

学力・学習状況調査の結果を見ると、小学校6年生の国語・算数は令和3年度と4年度に続いて全国・全道平均を下回っており、その差が少しずつ広がっている。中学校3年生では、令和3年度と4年度において国語・数学ともに全国・全道平均を上回り、安定した傾向が続いていたが、令和5年度は全国・全道平均を若干下回る結果となった。また、令和5年度、4年ぶりに実施された英語も全国・全道平均を下回る結果であった。このような状況を踏まえると何らかの対策を講じる必要があると考えられる。

学力向上の取組の要となるのが学校改善プランである。各学校においては、ここ数年の全国学力・学習状況調査や標準学力検査等の結果を受け、自校の改善プランをどのように修正し、取り組んできたのか、その成果と課題を詳細に検証する必要がある。学校改善プランは、短期的及び中長期的な視点から作成・実施し、取組の検証改善サイクルを確立することで、実効性を高めることが求められる。

改善プランを実行するに当たっては、どのような改善の手立てを講じて次の授業実践につなげていくかが極めて重要である。この点において、町教育研究所が発行している「令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析～音更町の学力の傾向と改善のポイント」が各学校の取組の参考になる。この紀要には小学校の国語・算数の改善のポイントとして、「納得できたことを自分の言葉でまとめる」「計算の方法や図形の操作などを式や図、文章で書き表す」など、非常に具体的な改善策が示されている。中学校の国語・数学においても、「説明の仕方を例示して考えさせたり、穴埋めの形のワークシートを活用したり、生徒の実態に即して記述の仕方の定着を図る」「日頃の授業から、数的な現象を文字を使って説明したり、公式にしてまとめたりするなどの活動を取り入れていく」など、授業で役立つ実践的な方策が分かりやすく提示されている。

学力の向上には、教師の教科指導力を高めることが不可欠である。町教育研究所が中心となり、町内の優れた授業実践を交流する機会を設定することで、授業力の向上に一定の役割を果たすことが期待される。

(2) 健やかな体の育成

子どもたちが生涯にわたって心身ともに健やかな人生を送る基盤となるのが体力である。本町では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果を体力向上の基礎資料として提示している。また、体力向上「運動プログラム」の実施や小学校体育エキスパート教諭の活用により体力向上を図っている。その他に「おとぶけ給食」などを実施し、食育の観点からも体力向上に努めている。

各学校においては、年間指導計画を作成し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を活用して組織的な体力向上に取り組んでいる。また、ICTを活用した体力づくりなどにも取り組んでいる。

本町児童生徒の体力の状況については、令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等

調査の結果を見ると、小学5年生は男女ともに全8種目中4種目で全国平均を上回っているものの、男女ともに体力合計点が全国・全道平均を下回る結果となった。課題は男女ともに柔軟性、全身持久力、走力・スピードである。また、男子も女子も「運動が好き」と回答した児童が全国・全道平均を上回っており、運動への意識が高い。

中学2年生男子は、全9種目中3種目、女子は2種目で全国・全道平均を上回っているが、男女ともに体力合計点が全国・全道平均を下回る結果となった。中学2年生男子の課題は柔軟性、瞬発力であり、中学2年生女子の課題は筋力、柔軟性、敏捷性、瞬発力である。また、中学2年生男子は運動の楽しさや体力向上への意識が高いが、中学2年生女子は低いようである。

課題のある種目の向上に向けては、新体力テストや全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析に基づいた取組を進めるとともに、短期的及び中長期的な視点から自校の年間指導計画を改善し、実効性のある計画にすることが求められる。

本町児童生徒の体力の課題を改善するため、町教育研究所では「音更町の子どもの体力と今後の取組～「体力向上」に向けた指導のヒント～」を発行し、体育の授業で活用できる具体的な取組と実践例を示している。各学校では、自校の実態に合わせてこの指導のヒントを取り入れ、体力向上の取組に生かすことが期待される。特に令和5年度版の指導のヒントは、QRコードから活動場面の動画を視聴できるように工夫されている。

(3) 豊かな心の育成

いじめや不登校の問題は、現在、教育現場の大きな課題となっている。本町においては、学校生活における児童生徒の満足感や学級集団の状態を把握するため、継続してハイパーQ Uアンケート調査が実施されている。また、心の教室相談員等に加え、令和5年度には高度な専門性を持つスクールカウンセラーが配置され、相談体制の充実が図られている。さらに、保護者や教職員等を対象とした不登校学習会が開催され、児童生徒以外にも支援する体制が整えられている。教育支援センターについては、不登校児童生徒の学習や生活をサポートするため、指導内容の一層の充実を期待したい。

いじめ問題の対応については、本町の「いじめ問題等対策委員会」によって、いじめに関する実態調査が行われている。この調査は、本町の児童生徒に関するいじめの状況を細部まで分析し、いじめ対応の視点も示している貴重な資料である。

本調査によると、令和5年4月以降に児童生徒が感じた「仲間はずれや無視、たたかれる、悪口を言われる」などの嫌な思いは、令和6年3月までには教育相談によって全て解消されている。これは、各学校が自校の児童生徒に向き合い、いじめを根絶するという強い姿勢で取り組んだ成果であると考えられる。

この調査で注目すべき点は、「誰にも相談しない」児童生徒である。そのような子どもは、苦しい思いを一人で抱え込んでいる可能性があるからである。嫌な思いをしたときに

相談する相手としては、先生や友達、親が多く、この三者を合わせて80%を占めている。一方で、「誰にも相談しない」という児童生徒も少なからずいる。具体的には、小学校低学年では48人(約3%)、小学校中・高学年では165人(約5%)、中学生では165人(約7%)が「誰にも相談しない」と回答している。学年が上がるにつれてこの割合は増加している。

これらの「誰にも相談しない(あるいはできない)児童生徒」にとって、自分の思いを伝える手段となるのが、電話による相談(「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」)や家庭にあるタブレットなどの端末を使った相談(「おなやみポスト」)である。しかし、「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」の認知度は、小学校低学年で約40%、小学校中・高学年で約70%、中学生で約80%。「おなやみポスト」の認知度は、小学校低学年で約20%、小学校中・高学年で約55%、中学生で約50%という結果であった。

調査の考察には、「小学校低学年で電話相談を利用した児童が29人いた」との記述がある。「電話相談紹介カード」にせよ「おなやみポスト」にせよ、これらを児童生徒に一層周知すれば、苦しい思いを誰にも相談できずにいる子どもたちにとって、相談の選択肢になると思われる。また、調査報告の考察には、「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」は「ネーミングが長いので「〇〇カード」のように何か愛称(略称)をつけると低学年児童も覚えやすい」という指摘があった。このカードの更なる周知を図るためには、一考に値する意見である。

本町の不登校児童生徒数は増加傾向にある。令和5年度は、小学校と中学校合わせて221人に上る。不登校の原因を特定することは難しいが、各学校の不登校の現状や支援策等をまとめることは可能であると思われる。その分析結果から不登校の傾向を見出し、より効果的な対応策を検討できるのではないかと。また、不登校の児童生徒に対しても、「電話相談紹介カード」や「おなやみポスト」の周知が必要である。

最近、いじめや不登校に関する指導において指摘されているのは、小学校在学中の児童の状況が入学先の中学校と共有されていなかったということである。児童の学校生活に関する情報は、卒業後に小学校と中学校の間で確実に引き継ぐことが求められる。

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教政策

教職員の働き方改革の観点や少子化の影響等により、各中学校を運営主体とした部活動の存続が厳しい状況となっていることから、全国的に部活動の地域移行が検討されている。本町においては、部活動改革協議会を設置するとともに、部活動地域連携推進員が配置されている。さらには、児童生徒や保護者、教職員等へのアンケート調査を実施するなど、部活動の地域移行に向けて計画的に取り組が進められている。

新たに配置されたスクールカウンセラーについては、学校との連携を密にし、教育相談

体制の充実に寄与することを期待したい。

教育施設の整備については、児童生徒の熱中症対策としてエアコン整備基本計画が策定された。道内でも猛暑による事故が発生していることから、この基本計画の策定は児童生徒を熱中症から守るための迅速な対応である。

情報教育については、児童の情報活用能力を育成するため、学習支援アプリが導入された。町教育研究所が主催し、効果的な活用に関する研修会や授業公開が行われており、学習支援アプリ導入の成果を期待したい。

学校給食関係では、学校給食費が9年ぶりに改定されたことに伴う値上げ相当額を町が補助している。保護者の負担を改定前の水準に据え置くという判断は、保護者の負担軽減につながるものとして評価したい。

(2) 社会教育の振興

放課後子ども教室は、放課後に児童の自主性や社会性、創造性等を養うための安全・安心な子どもの居場所となるものである。本町では既に市街地7校で実施されているが、令和5年度からは農村部4校においても試行的に実施され、小学校全11校で教室が開設されることになった。今後も地域の方の協力を得て継続的な取組を進めていきたい。

生涯学習事業については、音更ふるさと資料館がリニューアルされたことにより、町民が音更の歴史や自然、文化を知る機会が拡充された。多くの町民に観覧してもらうため、広報活動にも力を入れていきたい。また、「思い出の校歌アーカイブ事業」は、現在の小中学校や閉校となった小中学校の校歌を復元・収録し、将来にわたって保存することを目指すユニークな事業である。この事業によって郷土愛を醸成し、ふるさと音更への愛着を高めることを期待したい。

地域学校協働活動が本格実施された。外部講師登録者数は98団体に上っている。ふるさと教育的分野、政治教育的分野等、4分野で計469回の活動が実施され、主権者教育や消費者教育教室等の社会参画分野に関する授業は町内全小中学校で行われた。外部講師リストを作成することにより、従来、各学校で行っていた授業の企画や講師探しの業務が軽減され、中学校で実施している職場体験学習においても、受け入れ企業や団体の斡旋を行うことで各中学校の負担軽減につながっている。地域学校協働活動は各学校に浸透し、成果を挙げていることが伺える。今後もこの事業の継続と内容の更なる充実を期待したい。

また、社会福祉分野における地域学校協働活動についても、各小中学校における意識が高まりつつあることなどを背景とし、昨年度から町社会福祉協議会と連携した活動を徐々に実施しているようであるが、更なる内容の充実のため、より一層の連携が図られるよう検討していただきたい。

(3) 社会体育の振興

体力づくり・健康づくりの振興や施設利用状況については、幼児からシニア層までを対象に様々なスポーツ教室が開催され、多くの町民が各種施設でスポーツを楽しんでいる状況が伺える。「音更町第8次社会教育中期計画書」によると、「スポーツ活動の課題として、町民のスポーツ活動への参加意欲が高まるにつれ、活動施設や活動内容へのニーズも多様化、高度化している」とのことである。今後も町民のニーズを十分に把握した上で、事業内容や施設設備の更なる充実を期待したい。